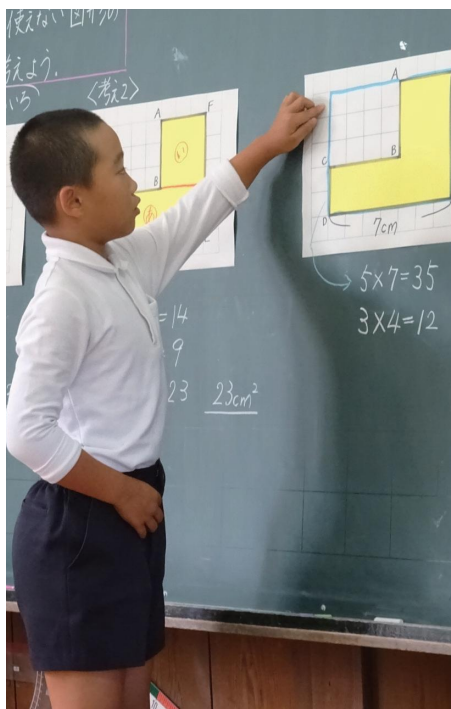




© 岡山県マスコット
ももっちとうらっちと仲間たち

新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

実践事例編



平成31年2月

岡山県総合教育センター

- ◆ 平成29年3月に公示された新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて、具体的な実践事例を冊子にまとめました。
- ◆ この冊子を活用して各教科等における授業の進め方や工夫を確認するとともに主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに取り組みましょう。

I 小学校各教科・領域
II 中学校各教科・領域



『新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり』（実践事例編）について

平成29年3月に新学習指導要領が公示され、小学校では2020年度から、中学校では2021年度から全面実施となります。

新学習指導要領では、児童生徒の資質・能力を育成するために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。

本冊子は、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、小学校・中学校の全ての教科等で行った授業実践の事例を一冊にまとめました。平成29年度に作成した「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり」では、各教科等の改訂の趣旨や授業づくりのポイントを示し、本冊子では、各教科等の「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりの具体を示しています。二冊併せて活用し、児童生徒の学びの質を高める授業づくりに役立てていただけたらと思います。

目 次

冊子の活用の仕方	2
各教科・領域のページの見方	3
I 小学校各教科・領域	II 中学校各教科・領域
国語科	32
社会科	34
算数科	36
理科	38
生活科	40
音楽科	42
図画工作科	44
家庭科	46
体育科	48
外国語科	50
特別の教科 道徳	52
外国語活動	54
総合的な学習の時間	56
特別活動	

冊子の活用の仕方

本冊子は、各教科等において求められる資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりを促進するために作成しました。平成29年度作成の「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり」の冊子で示した授業づくりのポイントに沿って実践した授業を紹介しています。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

児童生徒が、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまで取り組まれてきた実践の蓄積を生かし、学びの質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要です。

○授業改善の三つの視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

児童生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

※基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、その確実な習得を図る必要があります。

本冊子と平成29年度冊子を併せて活用

平成29年度冊子には、次の内容を示しています

○学習指導要領改訂の趣旨及び要点

- ・改訂の基本的な考え方
- ・各教科等の目標及び内容の構成
- ・学習内容の改善・充実

○各教科等における授業改善のポイント

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・学びの質を高めるために必要なポイント



○授業改善のポイントを確認

平成29年度冊子から、新学習指導要領で示された目標や改善された内容、「主体的・対話的で深い学び」を始めとした学びの質を高める授業改善のポイントを確認します。

○授業づくりをイメージする

本冊子の実践事例から目標の設定、単元（題材）や本時のデザインの進め方、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える教師の手だてを確認し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりを具体的にイメージします。

授業計画と振り返り

新学習指導要領の趣旨を授業づくりにどう生かすか、児童生徒の学びの質を高めるためにはどうすればよいか等、単元（題材）や本時の授業計画を立てる際や日々の授業実践を振り返る際に活用できます。

授業研究

学校全体だけでなく、教科部会や学年部会、OJTチーム等で授業研究を行う際の資料として活用できます。

- ・学習指導案を作成・検討する際の手がかりとなる資料として
- ・授業を参観する際の視点となる資料として
- ・研究授業の際、公開授業の成果や課題、今後の方向性を検討する資料として

発展的な活用

本冊子と平成29年度冊子の発展的な活用例を紹介します。

同校種の他教科のページ

各教科等での授業改善を積み上げるだけでなく、関連が深い教科等の内容事項と関連付けながら授業をつくるのが大切です。その際、関連する他教科等での目標や内容の改善、授業づくりのポイントやその具体を確認できます。

異校種の同教科のページ

小学校では今後中学校でどのような学びをしていくのか、また、中学校ではこれまで小学校でどのような学びをしてきたのかを踏まえて授業をつくるのが大切です。その際、異校種の関連する教科等の目標や内容の改善、授業づくりのポイントやその具体を確認できます。

各教科・領域のページの見方

各教科等のページは「授業づくりの視点」「授業実践事例」「児童生徒の学びの質を高めるPoint」の三つで構成しています。

授業づくりの視点

「授業づくりの視点」では、平成29年度に作成した冊子で紹介した各教科等における授業づくりのポイントを再整理し、視点として示しています。

授業実践事例

「単元（題材）の概要」では、実践した授業の単元（題材）名や内容等を示しています。

「単元（題材）を通して育成を目指す資質・能力」では、本単元（題材）で育成を目指す資質・能力について「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」で示しています。

「単元（題材）のデザイン」では、「本単元（題材）の流れ」とともに、それぞれの学習過程での具体的な「児童生徒の学びの姿」を示しています。そして、単元（題材）を通して行う教師の手だてを「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で紹介しています。

「本時の展開」では、「岡山型学習指導のスタンダード」で示している授業5（ファイズ）を踏まえた「本時の流れ」とともに、それぞれの学習活動における「児童生徒の学びの姿」を示しています。そして、それぞれの「児童生徒の学びの姿」に迫る教師の手だてを「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から具体的に説明しています。

児童生徒の学びの質を高めるPoint

各教科等の日々の授業において、学びの質を高めるための具体的なポイントを事例と関連付けて示しています。今後の授業づくりに取り入れてみましょう。

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではありません。単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。

本冊子では、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える教師の手だてのイメージを読者がもちやすくするために、1単位時間において、三つの学びを支える教師の手だてが見られた事例を取り上げています。その際、最も効果的な手だてを精選し、紹介しています。

新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり（実践事例）

小学校国語科

「書くこと」の領域では、「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」「記述」「推敲」「共有」といった学習過程における指導事項を確認した上で、それぞれの学習過程を明確にした授業づくりを行います。

授業づくりの視点

教師が単元で身に付けたい力を明確にした上で、児童自身が自分の学びを自覚できるように指導方法を工夫しましょう。

「書くこと」の領域では、「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」「記述」「推敲」「共有」といった学習過程における指導事項を確認した上で、それぞれの学習過程を明確にした授業づくりを行います。

授業実践事例

1 単元の概要 まとまりに分けて、お話を書こう【第2学年】 B書くこと

教師が作成した文章のモデルを見聞きして意欲を高め、絵からイメージを膨らませて「はじめ」「中」「終わり」のつながりを意識して文章を書き、1年生に向けて読み聞かせをする単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能	書いた文章を読み返して、誤字、脱字を直したり、句読点、助詞、かぎの使い方を正したりする。
思考力、判断力、表現力等	絵を基に書く内容を決め、構成を考えながら短い文章でメモする。語と語や文と文との続き方に注意して文章を書く。書いた文章を交流して読み合い、感想を伝え合う。
学びに向かう力、人間性等	絵から想像を広げて進んで文章に表そうとしたり、書いた文章をくり返し友達に伝えようとしたりする。

3 単元のデザイン 全11時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の見通しをもつ	●絵からイメージを膨らませて、自分だけのオリジナル文章を作り、1年生に紹介するという単元全体のイメージをつかむ。 ●先生が作ったお話はとても楽しかった。自分も早く作ってみたい。 ●作ったお話を1年生に紹介するのが楽しかった。
「お話メモ」を基に文章を書く	●文章を書いていく中で、アドバイスが必要ときに友達と読み合う。 ●「中」と「終わり」のつながりをスムーズにするのが難しい。友達に相談したら、文の順番についてアドバイスしてくれてうれしかった。 ●書き方のポイントに沿って文の順番を工夫したら、感動的な文章になったぞ。
文章を読み直す	●出来上がった文章を1年生に読み聞かせ、感想から自分が工夫した表現が伝わったことに気付く。 ●おもしろいと思ったところは、自分が工夫して書いた登場人物の特徴が表れたところだった。書き方を工夫するとよく伝わるんだ。
1年生に読み聞かせをする	
単元のまとめをする	

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
○教師が作成した短い文章をモデルとして提示する。 ○単元の導入時に児童と共に作成した学習計画表を授業の導入時に提示する。	○自分が表現したい内容を友達に伝えようとして、互いの文章を読み合う時間を設け、伝えたいことが伝わってきただけかどうかの視点で交流させる。	○「はじめ」「中」「終わり」のつながりを確かめたり、モデル文から捉えた書き方のポイントに沿って自分の文章について読み直したりする場を設定する。

※下段部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしたい「深い学び」の視点を示しています。

4 本時の展開 第6時/全11時

本時のねらい 文の続き方に注意しながら表現の仕方の工夫について考え、登場人物の特徴を捉えて文章を書くことができる。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
学習の見通しをもち、本時のめあてを確認する	●前時までの学習を振り返り、教師が作成した例文を基に本時のめあてをつかむ。 ●これまでの勉強では、お話のメモを書いてきた。 ●メモを基にしながら、工夫して文章を書くことが大切だ。 ●読む人を引きつけるポイントを見つけていきたい。	●主体的な学び 「学習の進め方」の手だて 「学習計画」を提示し、本時は今までに考えたお話メモを基に、詳しく文章を書いていくことを確認する。 ●対話的な学び 児童の「はい」「いいえ」の部分をモデルとして例に挙げ、特徴をいくつかに捉えられたところを、近くで友達と交流する場を設定する。
めあて 読む人を引きつける「はじめ」の書き方について考えよう	●モデルとなる文章の中から、工夫した表現の仕方について考える。 ●登場人物の特徴を表すには、「色」「動き」「音」などいろいろなポイントがあるんだ。 ●○○さんが「主人公を赤色にしたら強さが出たよ」とってアドバイスしてくれてよかった。 ●メモを基にして、自分の伝えたい内容にぴたり合った言葉を用いて文章を書く。 ●文の続き方によって、強調したい内容が変わるんだ。 ●先生が文の順番についてアドバイスしてくれて、登場人物の体の大きさが伝わりやすくなったぞ。	●深い学び 登場人物の一番大したこと、事な特徴を明確にできるように、どの順番で特徴を書いたらいいかを個別に検討させたり、書き方のポイントに沿って箇所々に花を付けたりする。
モデル文からよりよい表現の仕方について考える		
よりよい表現の仕方について考え、メモを基に文章を書く		
書いた文章を読み直す		
まとめ 読む人を引きつけるために、文の続き方に注意しながら登場人物の特徴が分かったりしやすい紹介をするように		
振り返りをする	●本時の学習を振り返り、分かったこと、できたこと、楽しかったことを挙げる。 ●「はじめ」に書くべき内容がよく分かった。 ●登場人物の特徴がはっきりした文章が書けるようになった。	○板書を基に、「はじめ」の書き方について確認できたこと、その書き方を使って実際に「はじめ」の部分の文章を書いたことを確認させる。

児童の学びの質を高めるPoint
自分の授業に取り入れてみましょう。

Point
見通しをもたせる提示
学習計画表を活用して、本時の位置付けを児童と共に確認しましょう。学習目的を明確にして、見通しをもって学習に取り組ませることが大切です。

Point
個別的な話し合いの場の設定
モデルを基に書き方のポイントを抑えさせた上で、そのポイントを意識して書く活動を行わせるようにしよう。児童同士の話し合いを通じて、ポイントに気付かせることが大切だ。

Point
学びの自覚を促す個別支援
書き方のポイントに沿って表現できたかどうかを児童自身に自覚させた上で、教員が評価して位置付けよう。児童の学力の定着度を見極めることが大切だ。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本冊子では、1単元の時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。

※本冊子と平成29年度冊子は、当総合教育センターのwebページからダウンロードすることができます。



授業づくりの視点

教師が単元で身に付けたい力を明確にした上で、児童自身が自分の学びを自覚できるように指導方法を工夫しましょう。

「書くこと」の領域では、「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」「記述」「推敲」「共有」といった学習過程における指導事項を確認した上で、それぞれの学習過程を明確にした授業づくりを行いましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 まとまりに分けて、お話を書こう【第2学年】 B書くこと

教師が作成した文章のモデルを見聞きして意欲を高め、絵からイメージを膨らませて「はじめ」「中」「終わり」のつながりを意識して文章を書き、1年生に向けて読み聞かせをする単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

書いた文章を読み返して、誤字、脱字を直したり、句読点、助詞、かぎの使い方を正したりする。

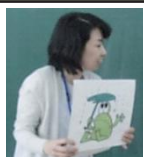
思考力、判断力、表現力等

絵を基に書く内容を決め、構成を考えながら短い文章でメモする。語と語や文と文との続き方に注意して文章を書く。書いた文章を交流して読み合い、感想を伝え合う。

学びに向かう力、人間性等

絵から想像を広げて進んで文章に表そうとしたり、書いた文章を繰り返し友達に伝えようとしたりする。

3 単元のデザイン 全11時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の見通しをもつ	◎ 絵からイメージを膨らませて、自分だけのオリジナル文章を作り、1年生に紹介するという単元全体のイメージをつかむ。 ・先生が作ったお話はとても楽しかった。自分も早く作ってみたい。 ・作ったお話を1年生に紹介するのが今から楽しみだ。 
「お話メモ」を基に文章を書く 本時 文章を読み直す	◎ 文章を書いていく中で、アドバイスが必要なときに友達と読み合う。 ・「中」と「終わり」のつながりをスムーズにするのが難しいな。友達に相談したら、文の順番についてアドバイスしてくれて嬉しかった。 ・書き方のポイントに沿って文の順番を工夫したら、感動的な文章になったぞ。
1年生に読み聞かせをする 単元のまとめをする	◎ 出来上がった文章を1年生に読み聞かせ、感想から自分が工夫した表現が伝わりやすかったことに気付く。 ・おもしろいと言ってくれたところは、自分が工夫して書いた登場人物の特徴が表れたところだった。書き方を工夫するとよく伝わるんだな。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 単元の導入時に児童とともに作成した学習計画を授業の導入時に提示する。
- 板書を基に学習過程を振り返らせ、次時に学んでいきたい内容を児童とともに確認する。

対話的な学び

- 自分が表現したい内容を友達に伝えた上で、互いの文章を読み合う時間を取り、伝えたいことが伝わってきたかどうかの視点で交流させる。

深い学び

- 「はじめ」「中」「終わり」のつながりを確かめたり、モデル文から捉えた書き方のポイントに沿っているかについて読み直したりする場を設定する。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第6時／全11時

本時のねらい

文の続き方に注意しながら表現の仕方の工夫について考え、登場人物の特徴を捉えて文章を書くことができる。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
学習の見通しをもち、本時のめあてを確認する めあて 読む人を引きつける「はじめ」の書き方について考えよう モデル文からよりよい表現の仕方について考える よりよい表現の仕方のポイントを意識して、メモを基に文章を書く 書いた文章を読み直す 学習内容をまとめる まとめ 読む人を引きつけるためには、文の続き方に注意しながら登場人物の特徴が分かりやすい紹介をするとよい 振り返りをする	◎ 前時までの学習を振り返り、教師が作成した例文を基に本時のめあてをつかむ。 - これまでの勉強では、お話のメモを書いてきたね。 - メモを使いながら、工夫して文章に表すことが大切だ。 - 読む人を引き付けるポイントを見付けていきたいな。 ◎ モデルとなる文章の中から、工夫した表現の仕方について考える。 - 登場人物の特徴を表すには、「住んでいるところ」「色」「動き」等いろいろなポイントがあるんだ。 〇〇さんが「主人公を赤色にしたら強そうだよ」ってアドバイスをしてくれてよかった。 ◎ メモを基にして、自分の伝えたい内容にぴったり合った言葉を用いて文章を書く。 - 文の続き方によって、強調したい内容が変わるんだな。 - 先生が文の順番についてアドバイスしてくれて、登場人物の体の大きさが伝わりやすくなったぞ。  ◎ 本時の学習を振り返り、分かったこと、できるようになったことを確かめる。 「はじめ」に書くべき内容がよく分かったぞ。 - 登場人物の特徴がはっきりした文章が書けるようになった。	主体的な学びの手だて 「学習の進め方」(学習計画)を提示し、本時は今までに考えたお話メモを基に、詳しく文章を書いていくことを確認する。 ○ 教師が作成した「はじめ」の文章を示し、メモをつなげただけでは、読み手を引き付ける文章にはならないことに気付かせ、めあてをつかむことができるようにする。 対話的な学びの手だて 既習内容の「スィミー」の「はじめ」の部分モデルとして例に挙げ、特徴をいくつか捉えられたところで、近くの友達と交流する場を設定する。 深い学びの手だて 登場人物の一番大切な特徴を明確にできるように、どの順番で特徴を書いたらいいかを個別に投げかけたり、書き方のポイントに沿った箇所に花丸を付けたりする。 ○ 板書を基に、「はじめ」の書き方について確認できたこと、その書き方を使って実際に「はじめ」の部分の文章が書けたことを想起させる。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

見通しをもたせる提示

学習計画等を活用して、本時の位置付けを児童とともに確認しましょう。その際、学ぶ目的を明確にして、見通しをもって学習に取り組ませるようにしましょう。

Point

意図的な話し合いの場の設定

モデルを基に書き方のポイントを捉えさせた上で、そのポイントを意識して書く活動を行わせるようにしましょう。その際、児童同士の話し合いを通して、ポイントに気付かせるようにしましょう。

Point

学びの自覚を促す個別支援

書き方のポイントに沿って表現できたかどうかを児童自身に自覚させた上で、教師が評価して位置付けましょう。その際、児童の学力の定着度を見極めることを大切にしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

社会的事象の中から疑問に思ったこと等を課題として見だし、予想したり、学習計画を立てたりする等、児童が主体的に授業に取り組むことができるように教材研究を深めましょう。

課題を追究したり解決したりする活動を充実させるために、「動機付け」「情報収集」「考察・構想」等、単元における学習過程を工夫した授業づくりを行いましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 安全な暮らしを守る【第4学年】

安全な生活を守る警察の諸活動について調べ、それらと人々の安全・安心な生活の維持・向上との関連や、安全・安心を守るための工夫や努力について考え、自分の言葉で適切に表現する単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

地域社会における人々の安全・安心な生活を守るための警察の働きと、そこに従事している人々や、地域の人々の工夫や努力を理解する。

思考力、判断力、表現力等

人々の安全・安心を守るための働きと、そこに従事している人々の工夫や努力について様々な立場から調べたり考えたりして、その過程や結果を適切に表現する。

学びに向かう力、人間性等

地域社会における人々の安全・安心な生活を守るための警察の働きについて進んで調べようとしたり、自らの生活に生かそうとしたりする。

3 単元のデザイン 全10時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の課題をつかむ	◎前の単元で消防について調べたことを思い出し、単元のイメージをもつ。 ・警察の仕事は消防の仕事とどこが違うのかな。調べてみたいな。
交通事故が起きた時の、警察の活動について考える 本時	◎交通事故が起きた時の警察の活動について予想し、調べたり考えたりする。 ・警察はパトカーで現場にかけつけるのではないかな。 ・事故が起これば、警察と消防が協力しながら活動するんだね。
インタビューや資料から警察の仕事の大切さについて考える	◎警察は人々の安全・安心な生活を実現するために、地域の人々と協力しながら様々な取組を行っていることを考える。 ・警察は、地域の人々と協力しながら安全・安心な生活を守っているんだ。
単元のまとめをする	◎分かったことや考えたことをまとめたり、自らの生活に生かしたりする。 ・私達が安心して生活できるのは、警察等の諸機関と地域の人々のおかげなんだ。 ・私も地域の一員として、交通安全の活動に参加してみよう。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 社会的事象から課題を見いだす場を設定することで、課題を自分事として捉えさせる。
- 単元全体の学びを振り返らせ、日々の社会生活に活用させる。

対話的な学び

- 警察等の役割について、互いの考えを伝え合う場を設定することで、新たな視点に気付かせたり、考えを広げさせたりする。

深い学び

- 分かったことを比較・関連付けする場を設定することで、他の単元や社会的事象に応用できる知識を獲得させる。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第4時／全10時

本時のねらい

交通事故が起きた時の警察の活動について資料を基に調べ、警察や消防が連携して迅速に対応していることについて考えることができる。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
本時のめあてをつかむ めあて 交通事故が起きたら、だれがどのように活動するのだろうか 交通事故が起きた時の警察や消防等の活動について、個人で調べたり考えたりしたことを発表する 班で考えをまとめ、全体で発表する 学習内容をまとめる まとめ 交通事故が起きたら、警察が中心となって、消防等と協力しながらすばやく活動する 振り返りをする	◎事故現場の動画からの気づきを基にして、本時のめあてをつかむ。 - 交通事故が起きた場所に警察官がたくさん集まって話をしているよ。 - 交通事故が起きたら、警察官はどんな仕事をしているのだろう。 ◎個人で調べたり考えたりしたことを班で発表する。 - 私の考えはAさんと似ていて、警察は運転手から話を聞くだけではなく、交通整理等の仕事もしていると思う。 - みんなで書き込んだワークシートを見ると、110番に電話をしたら警察につながるだけでなく、消防にもつながることに気付いたよ。 ◎班で考えをまとめ、発表する。 - 警察と消防は役割は違うけれど、互いに協力してけが人の命を守ったり、交通事故の現場が混乱しないよう交通整理をしたりしているんだな。 - 私たちの安全な生活は、警察や消防等の働きによって守られているのだな。 ◎学習して分かったことを、自分の言葉でまとめる。 - 友達の意見とは違うところに注目することで、新しい考え方ができたぞ。 - 警察の仕事についてもっと詳しく調べてみたいな。	主体的な学びの手立て 交通事故が起こった直後に警察が活動している動画を提示することで、交通事故発生時の警察の活動について学習していくという見通しをもたせる。 対話的な学びの手立て 班に一枚のワークシートを配付し、警察や消防等の活動について調べたり考えたりしたことを記入させ、友達と比較させることで、新たな視点に気づきやすくする。  深い学びの手立て 板書した児童の発言を線や矢印でつないだり、同じ内容のものを枠で囲って「すばやい連絡」「役割分担」等のキーワードで整理したりすることにより、比較したり関連付けたりしやすくする。 ○本時の学習を通して分かったことだけでなく、警察の働きに対する考え方が変わった点や疑問に思ったこと、もっと調べてみたいこと等を記述させる。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

動画を活用した導入

導入では、映像資料を提示する等、社会的事象への関心を高めさせたり、解決への見通しをもたせるようにしましょう。

Point

考えた内容を明確にした説明

「私の考えはAさんと似ていて～です」「Bさんの考えとは少し違うけれど～です」というように、社会的事象についてどのように考えたのかを明確に説明できるようにしましょう。

Point

構造的な板書

児童の発言を板書して可視化し、線や矢印でつないだり、同じ内容のものを整理したりすることで、児童が複数の社会的事象を比較・関連付けしやすくなるようにしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

事象を数量や図形及びそれらの関係等に着眼して捉える「見方」と、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考える「考え方」を働かせながら、より質の高い学びにつなげましょう。

「日常の事象から見いだした問題を解決する活動」「算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動」といった数学的活動を充実させ、数学的に考える資質・能力を育みましょう。

授業実践事例

1 単元の概要

面積【第4学年】

正方形や長方形といった図形の面積について単位と測定の意味を理解し、面積の単位や図形を構成する要素に着目して面積の求め方について考え、それらを用いることができるようにする単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

面積の単位（ cm^2 、 m^2 、 km^2 ）について知る。正方形及び長方形の面積の計算による求め方について理解する。

思考力、判断力、表現力等

面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えるとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察する。

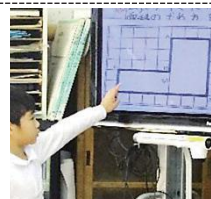
学びに向かう力、人間性等

面積の大きさを数値化して表すことのよさに気づき、進んで正方形や長方形の面積の公式を見いだしたり、公式を活用したりしようとする。

3 単元のデザイン

全10時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の課題をつかむ	◎花壇の広さ比べから、単元の課題をつかむ。 - 花壇の広さはどうやって比べたらよいのかな。 - 広さの表し方や求め方を調べていきたいな。
正方形や長方形の面積の求め方を考察する	◎正方形や長方形の面積の求め方を考える。 縦、横の辺の長さから面積を計算で求めたよ。
複合図形の面積の求め方を考察する	◎複合図形の面積の求め方を考える。 面積の公式が使えるように形を工夫したよ。
大きな面積の表し方を考察する	◎大きな面積の表し方を考える。 - 長さの単位がkmのときの面積の表し方を考えてみたいな。 1 m^2よりもっと大きな単位があることが分かったよ。



○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○問題提示を工夫し、広さの表し方や求め方に対する問いを引き出し、学習への興味・関心がもてるようにする。

対話的な学び

○広さの表し方や求め方を図や式を用いて伝え合わせ、考察を深めたり表現を洗練したりできるようにする。

深い学び

○図形の特徴に着目させ、広さの表し方や求め方を根拠を基に筋道を立てて考えさせたり、統合的・発展的に考察させたりする。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしたい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第4時／全10時

本時のねらい

複合図形を長方形や正方形に分けたり、大きな長方形と見たりすることで、既習の面積の公式を活用して面積を求めることができる。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
本時のめあてをつかむ めあて 公式がすぐに使えない図形の面積の求め方を考えよう L字型図形の面積の求め方を考える L字型図形の面積の求め方を話し合う 多様な求め方のよさを確かめる 学習内容をまとめる まとめ 公式が使える習った形に直せば、面積は求められる 振り返りをする	◎ L字型図形を観察し、問いや面積の求め方の見通しをもつ。 - 長方形や正方形の面積の公式がすぐに使えない形だな。 - どんな形にすると面積の公式が使えるのかな。 - 長方形になるように形を直してみよう。 ◎ L字型図形を分けたり補完したりする等、面積の求め方を考える。 - 二つの長方形に分けてみよう。 - 正方形と長方形にも分けられそう。 - 小さい長方形をつぎ足して、大きな長方形から、差し引いてみよう。 ◎ 求め方を発表し、考察したり表現を洗練したりする。 - このままの形では面積が求められないので、公式が使えるように二つの長方形に分けて計算で面積を求めたよ。 ◎ 凸字型図形で考えのよさを確かめ、それぞれの考えを関連付けながら考察を深める。 - 他の図形でも、分けたり、つぎ足したりする考えが使えることが分かったよ。 ◎ 何をどのように学んだのかを自分なりに整理する。 - どんな図形でも公式が使える習った長方形や正方形に形を直すと面積が求められることが分かったよ。 - 次は、階段のようなもっと複雑な形の面積の求め方を考えてみたい。	主体的な学びの手だて L字型図形の一部から段階的に提示し、図形の特徴を捉えさせる。  ○方眼に図形を記したカードを配付し、求め方を表現させる。  対話的な学びの手だて 全体で求め方を伝え合わせ、図を基に式の意味を捉えさせる。  深い学びの手だて 多様な求め方のよさや共通点を探らせ、どの考えも既習の求積可能な図形に帰着できることに気付かせ、考えを統合させる。 

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

問いや見通しをもたせる

問題提示の仕方を工夫したり、既習事項と関連付けたりして児童の問いを引き出し、方法や結果の見通しをもたせるようにしましょう。

Point

数学的に表現し伝え合う

図、数、式等の数学的な表現を用いて、考えを表現したり、考えたことや工夫したことを伝え合って共有・吟味したり、表現をより簡潔、明瞭、的確になるように洗練したりしましょう。

Point

統合的・発展的に考察する

複数の考えを一つの観点から束ねて統合したり、考察範囲を広げながら発展的に考えたりする等、数量や図形を統合的・発展的に考察させ、学びを深めさせましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

児童が問題を見いだす場面を設定し、予想や仮説を発想する時間をとりましょう。また、見通しをもたせ、観察、実験などを行いましょう。

根拠を基に考えを伝えたり話し合ったりする学習場面を設定して、自分の視点を広げ考えが深まるようにしましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 物の溶け方〔第5学年〕

物の溶け方について、溶ける量や様子に着目して、水の温度や量等の条件を制御しながら調べる活動を通して理解を図り、観察、実験の技能を身に付けるとともに、予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

物の溶け方について、物が水に溶けた時に、水と物を合わせた重さは変わらないことや、溶ける量には限度があり、水の温度や量によって違うこと、また、溶けている物を取り出すことができることを理解するとともに、観察、実験等に関する技能を身に付ける。

思考力、判断力、表現力等

物の溶け方について、溶ける量や様子に着目して、水の温度や量などの条件を制御しながら調べる活動を通して、物の溶け方の規則性についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現する。

学びに向かう力、人間性等

物の溶け方について意欲的に問題解決に取り組んだり、自分の活動を振り返り、意味付けしたり、学んだことを日常生活に当てはめたりしようとする態度を養う。

3 単元のデザイン 全16時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元を通して解決する課題（疑問）を見いだす 本時	◎ 食塩等が溶ける様子を観察し「溶ける」ことを捉える。 ・物が溶けるって、物が全体に広がり見えなくなることだ。 ◎ 食塩等の溶け方について疑問や調べたいことを見いだす。 ・物が溶けた時の重さは変わらないのだろうか、溶ける前と後を比べてみよう。 ・物が溶ける量には限界があるのだろうか、溶ける限界まで溶かしてみよう。 ・どのようにしたら、溶けた物を取り出すことができるだろうか。
単元の導入で出てきた疑問を、実験を通して考える	◎ 出てきた疑問に対して、予想や仮説を基に解決の方法を考える。 ・同じ実験をしたのに、結果から考えた考察は他の班と少し違うぞ。 ・溶ける量を考える時に、水の量を一定にしないと結果は比べられないな。
単元で学んだ知識を基に、日常生活での事象に当てはめて考える	◎ 日常生活の中で「物を溶かす」現象について改めて考える。 ・紅茶に砂糖を入れた時、見えない砂糖の粒はバラバラになって広がっているんだ。 ・社会で習った塩田は、水を蒸発させて塩を取り出していたね。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 観察、実験では、予想や仮説を発想する時間を取り、結果の見通しをもたせる。
- 既習の知識で説明できないことに気付かせることで、今後の問題の見通しをもたせる。

対話的な学び

- より妥当性のある考察になるよう、班や全体で話し合う活動を意図的に取り入れ、児童一人一人が観察や実験の結果の事実を根拠にした考察ができるようにする。

深い学び

- 多くの事象を扱い、水溶液の共通性について考えることで一般化した理解ができるようにする。
- 問題解決の力を身に付けるために、第5学年で重視する考え方の「条件制御」を意識して行う。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開

第1時／全16時

本時のねらい

食塩等の「溶ける」様子を観察し、その結果を図に表し交流する中で、疑問に思ったことや調べてみたいことを見いだすことができる。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
本時のめあてをつかむ めあて 食塩などが溶ける様子を観察しよう 食塩が水に溶ける様子を観察し、個人で考えた後、物の溶ける様子について話し合う その他の物の溶ける様子を調べ、食塩の溶ける様子と比べる 学習内容をまとめる まとめ 物は、溶けると全体に広がり透明になる 振り返りをする	◎生活経験から「溶ける」現象について想起し、学習の見通しをもつ。 - 砂糖が溶ける。 - 塩が溶ける。 - 砂糖や塩はどのように溶けているのかな。 ◎食塩が溶ける様子を予想し観察する。結果を言葉や図で表し、班で話し合う。 〈予想〉 - 上から下にだんだんと溶けていく。 〈結果〉 - もやもやした物が下に流れる。 - 時間がたつと、もやもやが見えなくなった。 〈考察〉 - 食塩の粒は、見えないほど小さくなり、ばらばらに広がる。 〔班の考察結果の例〕 ◎入浴剤等の他の物質が溶ける様子と、食塩の溶ける様子とを比べる。 - 物は全体に広がるように溶ける。 - 溶けると色が変わる物がある。 - 物が溶けた後は透明になる。 ◎食塩等の溶ける様子について疑問や調べたいことを見いだす。 - 物が溶けた時の水溶液の重さはどうなるんだろう。 - 物によって溶ける様子には違いがあるのかな。	○児童がこれまで経験した物の溶ける様子を想起させ、実際に食塩が溶ける様子を観察することを通して物が溶けることについて考える。 ○予想を立てた後、食塩が溶ける様子の観察を行い、視覚的に捉えた現象を自分の言葉で書くようにする。 対話的な学びの手だて 自分の考察を一人ひとりが発表した後、溶ける様子をどのように解釈したかについてそれぞれの考えを班で話し合わせる。 ○児童に、食塩の粒が溶けた後どうなったのかを考えさせる。その際、「重さには変化があるのかな」と聞くことで、既習の知識だけでは解釈できない事象があることに気付かせる。 深い学びの手だて 入浴剤等の色の付いている物でも食塩と同様に調べさせることで、水溶液の性質の共通性を見いだす。 ○「透明には、無色透明と有色透明って言葉があるけど」と透明に着目させ科学的に正しい表現にも言い直しをさせる。 主体的な学びの手だて 考察時に出てきた既習の知識だけでは、上手く説明できない問題について再び考えさせ、単元全体の学習の見通しをもたせる。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

結果の事実を基に考えをもつ

結果は、観察、実験から得られた事実です。考察は、その事実の解釈です。結果と考察を区別し、結果を基に考察できるようにしましょう。

Point

共通性を見いだす

他の物についても同様な方法で観察を行うことで、それぞれの事象の共通性を見だし、科学的な考察ができるようにしましょう。

Point

解決する問題を見いだす

これまでの経験や既習内容では、理解できなかったり、説明できなかったりする事象を児童に考えさせることで、解決する問題を見いだすようにしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

身近な人々や社会、自然と繰り返し関わり、試行錯誤をする中で、事象を注意深く見つめたり、予想を確かめたりする学び方を身に付けるようにしましょう。

体験した活動を振り返り、言葉や絵等で表現し伝え合うことで、無自覚で行った活動のよさや活動への思いを自覚できるようにしましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 「みんなのにこにこ だいさくせん」【第1学年】

家庭での自分の生活や家族の思いに目を向け、自分や家族が笑顔で過ごせるためには、どのようなことができるかを考え、計画を立てて実行することを通して、自分の役割や成長に気付く単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び 技能の基礎

家庭での家族や自分の「にこにこ」が、自分の生活と深く関係していることに気付き、家庭での生活は互いに支え合っていることや家庭でできる自分の役割が増えたことが分かる。

思考力、判断力、 表現力等の基礎

家庭での「にこにこ」を増やすため、家族のことや自分でできること等について考え、計画を立て実行するとともに、考えたり、聞いたりして分かったことや気付いたことを表現する。

学びに向かう力、 人間性等

家庭での自分の生活や家族への思いに関心をもち、規則正しい生活を送ったり、自分の役割を積極的に果たしたりする等、支えてくれている家族に感謝の気持ちをもち、意欲的に生活しようとする。

3 単元のデザイン

全9時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
自分が「にこにこ」する時を見付け、単元の見通しをもつ	◎自分が「にこにこ」するのはどんな時か考え、気付く。 ・楽しい時に、にこにこするよ。 ・この前の誕生日の時に、にこにこしてたよ。 ・お兄ちゃんと遊んだ時に、にこにこするよ。
家族が「にこにこ」する時を思い出し、自分でできる取組を考え「にこにこ大作戦」を実行する 本時	◎家族が「にこにこ」するのはどんな時か考え、自分ができる取組を考え実行する。 ・洗濯物をたたむのを手伝えそうだ。 ・妹と仲良く遊ぶことができるよ。 ◎実行した取組をまとめ、発表し、再度取組を考え実行する。 ・私は、お父さんの腰トントンをしました（右図）。誰か、お父さん役をお願いします。こんな感じ（実演）でしました。
まとめの発表会を開き、単元を通した取組を振り返り、まとめる	◎再度発表会を行い「にこにこ大作戦」の取組を振り返りまとめる。 ・お母さん（家族）の役に立つのでこれからも洗濯物をたたむことを続けたい。 ・自分も「にこにこ」になったし、家族も「にこにこ」になったので違うこともやってみたい。



○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○伝え合う活動の中で、様々な方法（絵、言葉、動作）を用いて表現させることで、自らの学びや成長に気付くようにする。

対話的な学び

○発表を繰り返し行うことで、無自覚だった自分や友達の取組のよさに気付くことができるようにする。

深い学び

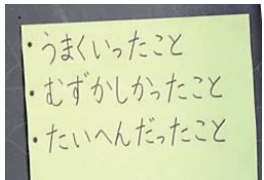
○活動を繰り返すことで、「役に立ってうれしい」ことに気付かせ、できることが増えた自分の成長について考えるようにする。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第7時／全9時

本時のねらい

「にこにこ大作戦」を実行して分かったことや気付いたことを伝える取組を通して、家族をもっと「にこにこ」させるためにできることを考え、もう一度計画を立てる。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
本時のめあてをつかむ めあて 「にこにこ大作戦」でしたことを紹介しよう 「にこにこ大作戦」の取組をみんなに紹介する	◎これまでの取組から本時の活動を考える。 - 家族が「にこにこ」するための取組を考えて実行してきた。 「にこにこ大作戦」でしたことを紹介したい。 ◎自分の取組をまとめて、クラスで発表する。 - 私は、晩ご飯づくりのお手伝いをしました。（実演しながら）こんな風に野菜を切りました。お母さんから、「手伝ってくれてありがとう、これからもよろしくね」と言ってもらいました。  ◎みんなの発表や黒板に貼られたシートから気付いたことを相互に発表する。 - 晩ご飯のお手伝いで、キュウリやキャベツなどの野菜を切れるようになったよ。 - 私のしたお手伝いは家族の役に立っている。 ◎継続したり、新たに挑戦したりすることを考える。 - 今度は、違うお手伝いをしたいです。理由はお母さんの役に立ちたいからです。	○前時までの取組をまとめた掲示物を1枚ずつ示し、「どんなことを勉強してきたかな」と尋ね、確認しながら、「今日はどんな勉強をしたい」と問い、本時の活動を考えさせる。 主体的な学びの手だて 自分の取組を言葉だけではなく、絵や動作を用いて発表させる。この時、「うまくいったこと」「たいへんだったこと」等の気付きを深める質問項目を掲示し、その掲示を活用して、児童相互に質問をさせることで、自分や友達の取組のよさに気付きやすくする。  〔質問の掲示物の例〕 深い学びの手だて 児童の発表後「なぜ、家族が「にこにこ」になったのでしょうか」と問い直すことで、自分にできることが増えたことや家族の役に立つ事ができたという、気付きを促す。 ○児童の役割や成長に関する気付きを促すために、「にこにこ」にするための取組を繰り返し行わせる。その際、挑戦したい取組の思いや願いを理由を付けて発表させる。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

前時までの学習の想起

前時までの学習内容を想起させるために、学習した具体的な取組を順に示す等の支援を行いましょう。また、本時の活動を主体的に考えるような支援を行いましょう。

Point

多様な方法で表現

自分の取組を絵や言葉、動作等の多様な方法で表現し、教師や友達から質問し、フィードバックを得ることで、児童が取組のよさに気付くようにしましょう。

Point

気付きを促す振り返り

振り返りでは、取組に関する思い等の理由を付けて発表することで、取組のよさへの気付きを促しましょう。その際、同様な進め方での発表を繰り返すことを大切にしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

授業の導入では、音楽によって喚起されるイメージや気持ちの変化に気付かせる等、興味や関心を高める工夫をしましょう。

音楽表現を高めるために音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科に応じた言語活動を位置付けましょう。

音楽の面白さに気付かせたり、表現を工夫させたりすることで、一人一人の学習の深まりにつながるようにしましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 せんりつの重なりを感じ取ろう〔第4学年〕

旋律が重なり合う響きを感じ取りながら、旋律の特徴を生かした歌い方を工夫し、自分や友達の声を聴き合いながら、思いや意図をもって歌ったり、旋律の反復や重なりによる曲想とその変化を感じ取り、楽曲のよさや面白さ、美しさを聴き味わったりする題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付き、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付ける。

思考力、判断力、表現力等

歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。

学びに向かう力、人間性等

進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしようとする態度を養う。

3 題材のデザイン 全5時間

本題材の流れ	児童の学びの姿
題材の見通しをもつ	◎ 学習で扱う曲を聴き、本題材のイメージをつかむ。 - それぞれの曲には特徴がありそうだ。歌い方を工夫できそうだな。 - どのように表現すればいいのかな。試しながら歌ってみよう。
「ファランドール」の旋律の特徴等を感じ取る	◎ 曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴く。 二つの旋律の特徴や重なり合いを動作や言葉で表現したいな。
「パレードホッパー」の表現を工夫する 本時	◎ 異なる二つの旋律の重なりを感じて歌う。 - 旋律が重なることで曲が盛り上がったな。 - それぞれの旋律の特徴を生かしながら歌おう。
題材のまとめをする	◎ お互いの旋律を聴き合って二部合唱を工夫する。 友達の歌声や副次的な旋律を聴きながら、自分の声を合わせて曲想にふさわしい表現で二部合唱したいな。

○本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○音や音楽と出会う場面において、児童に音楽のよさ等を感じ取らせることで、音楽によって喚起されるイメージや気持ちの変化に気付くことができるようにする。

対話的な学び

○音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりできる場を設定し、言語活動を充実させることで、新たな特徴に着目できるようにする。

深い学び

○旋律に着目し、旋律の特徴や楽曲の構造と曲想との関わりについて考えさせることで、音楽の面白さを捉えることができるようにする。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしたい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開

第3時／全5時

本時のねらい

異なる旋律の重なり合いを感じ取りながら、旋律の特徴を生かして歌うことができる。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
前時の学習を想起し、本時のめあてをつかむ めあて 異なる二つのせんりつの重なりを感じながら歌おう 自分なりに歌い方を工夫したり、友達と歌い方について話し合ったりする 旋律の特徴を生かして歌い方を工夫する 学習内容をまとめる まとめ 二つのせんりつを歌う時に、強弱や音色を工夫することができた 振り返りをする	◎前時の学習について話し合い、学習の見通しをもつ。 ・「パレードホッポー」と「ファランドール」は同じように旋律を重ねて演奏することができそうだと。 ・重ねて歌う時、声の大きさに気を付けて歌うとよさそうだな。 ◎二つの曲の旋律の特徴を生かしながら、異なる旋律が重なり合う面白さを感じて歌う。 ・〇〇さんはアのパートのスタカートで、短く切って歌えていると思います。 ・〇〇さんはイのパートを、なめらかに歌っていて、特徴がはっきり表せていたと思うよ。 ・二つのパートが重なって、曲が盛り上がっているよ。 ・アのパートが、イに比べて大きすぎるので、同じ大きさで歌おう。 ・イのパートが、アのパートにつられてだんだん小さくなるので気を付けよう。 ◎重なりを感じながらまとめとしての合唱を行う。 ・合唱の録音を聴くとクラスの音楽表現が高まっていることが分かったよ。 ・どのようにしたら旋律の重なりを感じて歌うことができるか分かったよ。	主体的な学びの手だて 雰囲気異なる旋律の重なりについて話し合わせることで、歌唱に生かしたいという意欲を高める。 ○楽譜を提示し、視覚的にリズムの比較ができるようにする。  対話的な学びの手だて 全員で歌ってみたり教師が範唱したりして、感じ取ったことを出し合う場を設定することで、二つの曲の旋律の特徴について気付かせるようにする。 ○言語化の苦手な児童に対して、キーワードだけを挙げさせる等、ワークシートの記述の仕方を工夫する。  深い学びの手だて まとめとして録音した合唱を聴き、それを基に話し合うことで、旋律を重ねて歌うことの価値や楽しさを感じられるようにする。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

音楽表現への興味・関心

導入では、異なる曲同士を比較させたり、音楽の特徴や構造に着目させたりする等、音楽表現への興味・関心を高める工夫をしましょう。

Point

音楽表現を高める言語活動

表現の工夫を促すには、音楽的な特徴を共有する言語活動を設定し、実際に歌ったり、話し合ったりして曲の特徴を捉えることができるようにしましょう。

Point

面白さ・表現の工夫の実感

終末では、まとめの合唱を聴き合う等、学習の手応えを実感する場を設けることにより、音楽の面白さや表現の工夫を捉えることができるようにしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

「A表現」では、児童の実現したい思いを大切にしましょう。4年生の「B鑑賞」では、自分の見方や考え方を広げられるようにしましょう。

児童が自分の感覚や活動を通して、材料や作品、出来事等を、形や色等の造形的な視点で捉えられるようにしましょう。

完成作品だけでなく、発想や構想したり、技能を働かせたりしている製作途中の作品を見合う等、表現と鑑賞を関連させましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 音楽会の記念CDジャケットをつくろう！【第4学年】

表現や鑑賞の活動を通して、作品に表したいことや表し方等について考えながら、形や色等の感じ、そこから受けるイメージに着目させ、自校の音楽会の曲に合うように「音楽会の記念CDジャケット」を製作する題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

作品を表現したり鑑賞したりする際に、形や色等の感じについて自分の感覚を通して分かるとともに、材料や用具を使い、表し方等を工夫して創造的に表すことができる。

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方等について考え、豊かに発想や構想をしたり、作品から自分の見方や感じ方を広げたりすることができる。

学びに向かう力、人間性等

進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、形や色等と関わり、自分の思いやイメージをもって楽しく豊かに取り組もうとする。

3 題材のデザイン 全7時間

本題材の流れ	児童の学びの姿
美術作品を鑑賞し、形や色等の感じに気付く 本時	◎ マティスの切り絵の作品を鑑賞し、形や色の感じに気付きテーマを読み取る。 ・ 形が踊っている人に見えるので、たぶんサーカスの絵だと思うよ。 ・ 色がとっても明るいから、マティスさんは幸せな感じを表したいんじゃないかな。
曲から感じたことを基に、CDジャケットをどのように表すか考える 表したいことに合わせて、表し方を工夫する	◎ 音楽会で演奏する曲のイメージを言葉で表し、内容や雰囲気合うイメージのアイデアを考え、色紙を使って表し方を工夫し創造的に表す。 ・ 曲のイメージからアイデアを考えて友達と話したら、いろんな感じ方や考え方があるんだなとびっくりした。もっと、いろいろ工夫したい。 ・ 形や色などを工夫して色紙を切ったり、紙の方向や大きさを変えたりしてみた。 ・ 考えたことから、白の台紙に4色の色紙を組み合わせ、工夫して貼ったよ。
完成作品を相互鑑賞する 題材のまとめをする	◎ 完成した作品を相互鑑賞し、お互いの作品のよさや面白さを感じ取る。 ・ 曲から感じた内容やイメージって、みんな違って面白いな。 ・ 形や色等を工夫すれば、表したいイメージをいろいろ表現できるね。

○本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 児童が形や色等の感じに気付きやすい作品を準備し、作品と効果的に出会う場面を工夫した鑑賞の活動を仕掛ける。
- 造形的な視点を大切に、振り返りから学びの変容を自覚させる。

対話的な学び

- 作品鑑賞は、まず個人で考えさせ、児童に視点をもたせてから話し合いを行わせる。
- 鑑賞して読み取った作品に込められた思いや表現の工夫を話し合わせる場面を設定する。

深い学び

- 交流して得た作品に対する見方や考え方を基に繰り返し作品を鑑賞させたり、作品について考えさせたりすることで、作品を捉える造形的な視点を広げさせる。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしたい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開

第2時／全7時

本時のねらい

形や色等の感じに着目して、作品の面白さや表したいこと、いろいろな表し方について感じ取ったり考えたりすることができる。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
前時を確認し 本時のめあて を知る めあて 絵をよく見て、 作品のテーマ を考えよう	◎ 前時のマティスの作品鑑賞から学んだことを確認する。 ・ いろんな色が使われていたし形も大小あって、面白い形がいっぱいあった。 ・ 今日は、作品からテーマを考えるんだね。 	主体的な学びの手だて 形や色、イメージ等から、よさや面白さに児童が気付きやすい作品を鑑賞させる。 ○ 前時に気付いた視点の形や色、イメージを確認し、本時は、その視点を使って作品のテーマを考えることを説明する。 ○ 最初に個人で作品をしっかり見ることに、作品から考えた根拠も発表することを伝える。
作品を鑑賞し、自分で考えたテーマについて班で話し合う ※上記を6作品繰り返す	◎ マティスの作品から、テーマとそう感じた理由を考える。 ・ ぎざぎざの歯が面白い。きつとライオンににらまれているんだよ。 ・ あたたかい色だから、テーマは「幸せの心」だと思うな。  ・ 班で話し合ったら、自分とは違う考えがあって面白いな。 ・ 作者の作品への思いが分かった。もう一度鑑賞してみよう。	対話的な学びの手だて 意図的に異なる考えを発表させ、根拠を基に作品に対する見方や考え方の違いに気付かせる。 ○ 最初は、テーマが捉えやすい作品を児童に鑑賞させ、その後、形や色等から作者の様々な思いが捉えられるような作品を段階的に鑑賞させる。
学習内容をまとめる まとめ 色や形の感じをよく見ると、作品のテーマが考えられる 振り返りをする	◎ 鑑賞を通して気付いたことや分かったことをワークシートに記入し発表する。 ・ 自分と友達の考え、マティスさんの考えが違っていてびっくりした。 ・ 色と形をよく見ると、作品のテーマが分かった。作品を描くときにも気を付けたいな。	深い学びの手だて 対話で気付いた見方や考え方でさらに作品を鑑賞させたり、自分と友達の考えたことの違いを基に作品を捉え直させたりする。 ○ 学びを振り返り、本時で学んだことをワークシートに記入し、発表させる。 

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

作品から自分の考えをもたせる

作品鑑賞では、児童が自分の考えをもってから対話をするようにしましょう。そのためには、鑑賞の視点を確認し、個人で見る時間を十分確保しましょう。

Point

根拠を交流する話し合い

児童に自分とは違った見方や考え方があることに気付かせましょう。そのためには、根拠も一緒に発表させ、お互いの意見のよさを認め合う雰囲気大切にするとよいでしょう。

Point

造形的な視点から考える

交流して得た見方や考え方をういて、もう一度個人で考えさせましょう。そのためには、造形的な視点を大切にしながら、新たに考える場面を設定するとよいでしょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

日常生活との関連を図った問題解決的な学習で、児童が課題を解決できた達成感や実践する喜びを味わえるようにしましょう。

日常生活の中から課題を発見できるように、既習の知識及び技能や生活経験を基に自分の生活を見つめる場面を設定しましょう。

実践的・体験的な活動を中心として、習得した知識及び技能を生活の場で生かせるように具体的な活動場面を設定しましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 きれいを広めよう クリーン大作戦【第6学年】 内容B（6）

普段の清掃を見直し、落ちにくい汚れを落とす方法を調べ、実践する。実践を振り返り、よりよい清掃の仕方を考え、全校に伝える活動を通して、清掃の必要性が分かり、快適な住まいへの工夫を考える題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

気持ちよく生活するために、住まいの清掃が必要であることが分かり、清掃の仕方を理解し、適切にできる。

思考力、判断力、表現力等

身近な生活の中から住まいの清掃に関する問題を見だし、課題を設定し、快適の視点から、効果的な清掃の仕方を考え、工夫することができる。

学びに向かう力、人間性等

快適な住まい方について身に付けた力を、家庭生活をよりよくするために生かして実践しようとする。

3 題材のデザイン 全5時間

本題材の流れ	児童の学びの姿
普段の清掃を振り返り、課題を見付ける	◎ 普段の清掃を映像で振り返ったり、児童自身で汚れを見付けたりすることで、清掃への興味や関心が高まり、試しの活動をやってみたくなる。 ・ すごく汚れているところを見付けたよ。どうやったら落ちるかな。
調べ、実践してみる	◎ 落ちにくい汚れの清掃の仕方を調べ、実践してみる。 ・ お家の人に聞いたり、本で調べたりしたら、いろいろな清掃の工夫があった。 ・ 調べた方法でやってみたら、きれいになって嬉しかった。
よりよい清掃の仕方を考え、工夫する	◎ 実践した結果を基に、汚れに合った清掃の仕方を工夫する。 ・ みんなの工夫を聞いて、前とは違う清掃の仕方で行ってみよう。
清掃の工夫をまとめ、全校に伝える	◎ 清掃の工夫を全校に伝える。 ・ 試して一番よかった清掃の仕方を分かりやすく伝えよう。 ・ 下級生が、伝えた清掃の仕方を試してくれるといいな。



○本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手立て

主体的な学び

- 校内の落ちない汚れを自分達で見付け、撮影することで清掃への興味、関心を高めさせる。
- 調べ、実践した清掃の工夫を全校に伝える場を題材の最後に設け、見通しをもたせる。

対話的な学び

- 実践した清掃の仕方を班内や学級で発表させ、いろいろな方法があることに気付かせる。
- お家の人へインタビューを通して、家庭でも清掃の仕方を工夫していることに気付かせる。

深い学び

- 落ちにくい汚れの清掃の仕方を調べ、いろいろな方法を実際に試させることで、より効果的な清掃の仕方やその工夫を考えることができるようにする。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしたい教師の手立てを示しています。

4 本時の展開 第4時／全5時

本時のねらい

調べ、実践した結果を基に、汚れにあった清掃の仕方を考え、工夫することができる。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
本時のめあてをつかむ めあて 汚れにあった清掃の仕方を考えよう 工夫した清掃の実践を発表する 発表から気付いたことを個人で考えた後、班で伝え合い関係性を見付ける ゲストティーチャーの話を聞く 実践した清掃の仕方を見直す 学習内容をまとめる まとめ 清掃の仕方は、場所や汚れの種類で分けられ、工夫がたくさんできる 振り返りをする	◎前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 - 汚れには色々な種類があることが分かったよね。 ◎汚れを落とす工夫や、汚れが落ちた様子を発表する。 - 古い歯ブラシを使った清掃の工夫をみんなに伝えるよ。  ◎汚れの種類、場所、清掃の仕方の関係を見付ける。 - 汚れの種類や場所によって清掃の工夫は似ているな。 ◎ゲストティーチャーの話を聞く。 - 清掃の工夫が適切だったよと言ってもらえて嬉しかった。  ◎自分達の清掃の仕方を見直す。 - 新しい清掃の工夫を知ったから、その方法でも試してみたいな。 ◎活動を振り返り、分かったことや活動後の気持ちを考える。 - 清掃の仕方は汚れの種類で違うことが分かった。 - 学校がきれいになって嬉しくなった。	主体的な学びの手だて 汚れを見付け、種類分けした前時の学習の振り返りを発表させ、本時の学習の見通しとめあてをつかませる。 ○児童が工夫した清掃の仕方を大型モニターや実際の道具を利用して発表させ、視覚的に理解しやすくする。 ○汚れの種類と清掃の仕方の関係を見付けやすくするため、児童の発表に合わせて、写真や清掃の工夫を板書する。  対話的な学びの手だて 発表や板書から気付いたことを伝え合わせ、汚れの種類や場所、清掃の仕方の関係を班で見付けさせる。 ○今後の実践への意欲や達成感を得ることができるようゲストティーチャーに、児童の実践への更なる提案や工夫への称揚をしてもらう。 深い学びの手だて 汚れに応じた清掃の仕方をよりよいものにするために、他班の工夫やゲストティーチャーの助言を基に、自分達の実践の見直しを考えさせる。 ○課題解決の達成感を味わい、今後の生活でも清掃の仕方を工夫していけるように分かったことや清掃後の気持ちも書かせる。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

めあてを主体的につかませる

前時の振り返りを発表させたり、これまでの活動の様子を写真で見せたりして、本時のめあてをつかませる工夫をしましょう。

Point

ゲストティーチャー等の活用

日常生活の中の課題解決を図る実践的な学びを充実させるために、学校の実態に応じて、児童の実践活動に助言をしてくださる家族の方やゲストティーチャー等に協力を依頼しましょう。

Point

振り返り時間の確保

児童が日常生活の中の課題を解決し、その活動による自己の成長に気付けるように、活動内容を振り返るだけでなく、活動を通して分かったことや活動後の気持ち等を書かせる時間を確保しましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



© 岡山県マスコット
ももっちとうらっちと仲間たち

授業づくりの視点

運動に関する自らの課題を見いだしたり、解決に向けた学習過程を、単元の中に位置付けたりして主体的に取り組めるようにしましょう。

毎時間、学習活動を振り返る場を確保し、自分の運動が上達したことを実感するとともに、上達した理由を考えさせるようにしましょう。

運動することが、楽しさや喜びを実感するだけでなく、体力向上につながっていることにも着目できる活動を取り入れましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 器械運動（跳び箱運動）【第5学年】

技の美しさを単元を通して追求し、技を美しくするポイントを確認したり友達からの助言を受けたりしながら活動し、その技の上達を実感するとともに、楽しさや喜びを味わう単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能	「開脚跳び」「台上前転」「かかえ込み跳び」を習得するとともに、その技の名称や行い方を理解する。
思考力、判断力、表現力等	友達からの助言を受けて、「開脚跳び」「台上前転」「かかえ込み跳び」をより美しくするためのポイントを考えたり、繰り返し練習したりして、上達した技を表現する。
学びに向かう力、人間性等	友達と協力して運動したり、考えや取組を認め合ったりして、「開脚跳び」「台上前転」「かかえ込み跳び」に積極的に挑戦するとともに、試技前後の安全に配慮する。

3 単元のデザイン 全7時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
技を美しくするという単元の見通しをもつ	◎手本の動画を見て技のイメージをもち、その技を美しくするために活動するという単元全体の見通しをもつ。 ・動画のように「開脚跳び」「台上前転」「かかえ込み跳び」が美しくできるようになりたい。
三つの技を習得する	◎教師が示した技のコツに気を付けて練習し、三つの技ができるようになる。 ・コツに気を付けて練習すると、三つの技ができるようになった。
挑戦する技を選び、助言と練習を繰り返し、技をより美しくする 本時	◎挑戦する技をより美しくするためのポイントを考え、練習する。 ・手本と友達の動きを比べ、より美しくするためにアドバイスをしよう。 ・技を美しくするために見つけたポイントを意識し、繰り返し練習をしよう。
技の発表会を行う	◎これまでの活動を振り返り、技が上達したことを実感する。 ・見つけたポイントに気を付けると美しい技にだんだんと近付いてきた。
単元のまとめをする	・ポイントに気を付けたり、友達と協力したりして、技が上手になると嬉しいな。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○手本の動画や技を美しくするためのコツを示すことにより、児童に見通しをもたせる。

○気付いたポイントを大切に学習を振り返らせ、次への学びにつなげる。

対話的な学び

○友達の練習を観察する活動、友達の動画と手本の動画を比べ助言し合う活動を取り入れ、技を美しくするために妥当性のあるポイントを見付けるようにする。

深い学び

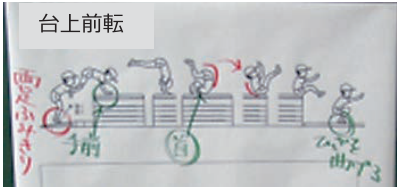
○自分の活動を動画で見たり、友達からの助言やフィードバックを得たりする場を設け、上達だけでなく、友達と協力することのよさを実感できるようにする。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第4時／全7時

本時のねらい

挑戦する技のポイントについて考え、友達からの助言を通してより美しく表現することができる。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
学習の見通しをもち、本時のめあてを確認する めあて 挑戦する技を美しくするポイントについて考え、練習を工夫しよう 手本と自分達の動きの違いについて、個人で考えた後、友達と話し合う 友達の助言を意識して3人組で活動する 学習内容をまとめる まとめ 友達からの助言から見付けたポイントを意識すると、より美しく表現できる 振り返りをする	◎ 手本の動画や絵図を見て、本時のめあてをつかむ。 - 手本の動きや絵図を参考にして、自分に合ったポイントを見付けて練習すると、美しい技に近付けそう。 台上前転  〔台上前転のコツを示した絵図の例〕 ◎ 手本と自分や友達の動きを比べ、より美しい技にするために助言し合う。 - 手本と同じように跳び箱の手前に手を着くといいよ。 - 強く踏み切り腰を高く上げて跳ぶといいよ。 ◎ 友達の助言を意識して練習を工夫する。 - 強く踏み切って跳んでみよう。 - 跳び箱の手前に手を着いたらうまく回転できた。  ◎ 学習を振り返り、分かったことをワークシートに書き、発表する。 - 友達のアドバイスを意識して練習すると上手くできた。 - あごを引いて回るというポイントを見付けた。	主体的な学びの手だて 手本の動画を示したり、技のコツを示した絵図を確認させたりすることで本時のめあてをつかみやすくする。 ○三つの中から、挑戦する技を選ばせ、導入で示した技のコツに留意して練習させる。 ○練習の様子をビデオで撮影するとともに、同じ班の友達の練習を観察させる。 対話的な学びの手だて 自分や友達の動画を手本の動画と比べ、より美しくするポイントについて互いに助言し合うようにする。 深い学びの手だて もう一度めあてを確認し、友達の助言から技をより美しくするポイントを考えさせる。その後、考えたポイントを意識して練習するように促す。 ○できるようになったことや分かったことに加えて、どのようなポイントが効果的だったのかについて振り返るようにする。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

見通しをもたせる提示の工夫

手本を視覚的に確認するだけでなく、技を上手にするコツを示す等して、児童がめあてを自分のこととして捉え、主体的に学ぶことができるようにしましょう。

Point

意義を明確にした話し合い

手本の動画や教師が示したコツを手掛かりにして、自分達の動画を比べて留意することを見付け、その上で助言し合うようにしましょう。

Point

上達を自覚する活動

個人で練習する前に、めあてに立ち返ったり、留意するポイントを意識させたりしましょう。活動後の振り返りでは、新たにできるようになったことを考えさせ、技の上達を実感できるようにしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

言語を使用する場面を設定し、実際に言語を使用して互いの気持ちを伝え合う活動を大切にしましょう。

中学年の外国語活動で慣れ親しんだ語句や基本的な表現等の学習内容を繰り返し指導し、定着を図りましょう。

「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」に、「読むこと」「書くこと」を加え、中学校へつながる基礎的な力を育てましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 When is your birthday? [第5学年]

児童にとって大切な誕生日や行事を取り上げながら、日常生活に欠かせない月日、好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合う単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合う際に必要な表現を理解するとともに、それらについて尋ねたり答えたりする。

思考力、判断力、表現力等

友達の好みや欲しいもの、誕生日に関するまとまりのある話を聞いて分かったり、伝え合ったりする。

学びに向かう力、人間性等

積極的に取り組むとともに、他者に配慮しながら、好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合おうとする。

3 単元のデザイン 全7時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の見通しをもつ	◎ 好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合う単元全体のイメージをもつ。 ・ 同じ月でも日本とは季節が異なる国があるよ。 ・ 先生のように英語で会話ができるようになりたいな。
練習や自己表現活動、振り返りを重ねながら、語彙や表現に慣れ親しみ、必要な表現を習得する	◎ 好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合うために必要な表現を習得し、繰り返し表現する。 ・ 月と序数を使ったら、自分の誕生日が紹介できるよ。 ・ 好みや欲しいものが尋ねられるようになってきたよ。 ・ 友達に伝えるためにどのようなことに気を付けたらよいかな。
言語活動を行う 本時 単元を振り返り、次への課題をもつ	◎ 好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合うという言語活動を行い、自分の考えや思いを他者に伝える。 ・ 相づちを打ちながらやり取りができたよ。 ・ 今まで知らなかった友達の一面を知ることができたよ。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 児童にとって特別な月日である誕生日を扱うことで、興味や関心を高めさせる。
- 誕生日等について伝え合うという言語活動のモデルを見せることで、単元の見通しをもたせる。

対話的な学び

- ペアや班で英語を使ってコミュニケーションを行う場を設定することで、誕生日等について伝え合うために必要な語彙や表現を繰り返し用いて英語に慣れ親しみ、表現の定着を図る。

深い学び

- 慣れ親しんだ語彙や表現を活用して言語活動を行う中で、自分の言語活動を振り返る場を設定することで、改善点や気づきを促し、次の言語活動へ生かすことができるようにする。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第7時／全7時

本時のねらい

好みや欲しいもの、誕生日について、慣れ親しんだ表現を使って、相手のことを考えながら伝え合うことができる。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
帯活動（スモールトーク）を行う	◎スモールトークを行い、英語学習に向かう気持ちを高める。 ・前の授業で習った表現だね。 ・集中して先生たちのやり取りを聞こう。	○スモールトークを行う際は、教師とALT間で既習の表現を使ってやり取りをしながら、How about you? やWhat do you think? 等と児童に話題を振ることで、学級全体で学習する雰囲気をつくる。
学習の見通しをもち、めあてをつかむ めあて 好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合おう	◎好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合おうという言語活動のモデルを示し、本時のめあてをつかむ。 ・先生に関する情報をしっかり聞き取ろう。 ・どの先生の情報かな。 	主体的な学びの手だて 児童の関心のある身近な先生の情報（話題）を取り上げ、ALTが児童とやり取りをしながら、モデルを示す。 ○教師の情報（話題）を取り上げる際には、Who am I? Please guess.と児童の興味を引きながら、内容を推測させる。
やり取りをしながら、重要表現に慣れる【Who am I?】 やり取りを重ねながら、自己表現の幅を広げる	◎言語活動を行い、必要な語句や表現に慣れ親しむ。 ・スムーズに友達に伝えられるようになってきたよ。	対話的な学びの手だて 言語活動を行う際に、まずは言語活動を実施し、語句や表現を繰り返し使用する中で、表現の仕方を徐々に理解させるようにする。
学習内容をまとめる まとめ 既習表現を使用して会話をすれば、好みや欲しいもの、誕生日を友達と伝え合うことができる	◎試行錯誤や対話を重ねながら、よりよいコミュニケーションの方法を探る。 ・自分の欲しいものをどのように言えば伝わりやすいかな。 ・Really? Me too! Nice.を使えば、会話が続くね。 	深い学びの手だて 言語活動を振り返り、上手くいった点や改善点を考えるように投げかけたり、分からない表現等の全体指導を行ったりする。
振り返りをする	◎本時で学んだことを言葉で表現し、新たな見通しをもつ。 ・相づちを打ちながらやり取りするとお互いに気持ちいいね。	○振り返りや全体指導を踏まえて、再度言語活動に取り組ませ、よりよい言語活動を行うことができるようにする。 ○友達に伝える表現や友達のことを考えた伝え方の工夫に関する気付きを称賛し、全体で共有する。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

スモールトークの位置付け

英語表現の定着を図ったり、英語学習に向かう意欲を高めたりするために、既習の表現を使って英語で会話を楽しむ帯活動（スモールトーク）を授業の導入に位置付けましょう。

Point

段階的な指導を行う

「言語活動」「振り返り・分からない表現等の指導」「再び言語活動」という段階的な流れによって、自分のことを伝え合わせることで、児童自らが改善点を見つけ、よりよいコミュニケーションの方法を考えられるようにしましょう。

Point

自己の学びを自覚させる

振り返りのポイント（声の大きさやアイコンタクト等の伝え方や表現の工夫）を示し、具体的に振り返りを行うことで、自己の学びを自覚させましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

道徳性を養う中で、児童自身が道徳的価値をこれまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、自分との関わりで考える学習を行いましょう。

多様な感じ方や考え方に接する中で、児童が自分の生き方についての考えを深めることができるように、書く活動、話し合う活動、動作化、役割演技等の言語活動を取り入れましょう。

道徳科の目標、学級や児童の実態を踏まえた上で、授業全体の方向性を問題解決的な学習としつつ、登場人物への自我関与や役割演技等の疑似体験から考えを導き出す等の指導方法の工夫をしましょう。

授業実践事例

1 主題の設定

最後まで粘り強く〔A希望と勇気、努力と強い意志〕〔第1学年〕

主題の概要

児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことは、あきらめずに最後までやり抜くことが大切である。途中で困難や失敗があってもそれを乗り越えて、やり遂げる喜びや達成感を大事にし、努力する自分を認められる心情を育てたい。

学級の実態

本学級の児童は、自分の行うべきことに前向きに取り組んでいるが、自覚はあるものの忘れたり十分行わなかったりする児童もいる。また、嫌いなことや苦手なことになるとくじけてあきらめてしまう児童もいる。

使用する教材の概要

本教材は、音楽隊の演奏会に向けてらっぱを担当しているこぐまが、うまく演奏できずくじけそうになりながらも練習に取り組み、最後には演奏会を成功させる話である。あきらめかけて再び取り組んだこぐまの思いを想像することで、ねらいに迫りたい。

2 本時の展開

本時のねらい

自分がやらなくてはならないことは、最後まで粘り強く行おうとする心情を育てる。

本時の流れ	教師の発問と児童の学びの姿	教師の手だて
学習発表会の練習を想起し、めあてをつかむ めあて うまくいかないことがあったときも、がんばりつづけるためにはどうすればよいかな 教材「こぐまのらっぱ」を読んで、話し合う	◎学習発表会の合奏の練習をしている時、どんな気持ちですか。 ・頑張ろう。 ・うまくいなくて嫌だな。 ・できそうにないな。 ・難しくてやる気がなくなったことがあったよ。 ◎らっぱをかかえ家の前にすわるこぐまは、どんなことを考えているでしょう。 ・練習してもできないよ。 ◎また練習を始めたこぐまは、どんなことを思いながら練習を続けたでしょう。 ・もっといい音を出したいな。 ・みんなを喜ばせたいな。 ・応援してくれる友達のために頑張ろう。	主体的な学びの手だて 学習発表会の合奏の曲の楽譜を提示することで、今までの曲とは違い難しいということを感じ起こさせる。そうすることで、学習発表会に向けた様々な気持ちを語らせ、本時のめあてにつなぐようにする。 ○こぐまのお面を用意し、役割演技をさせることで、うまくらっぱが吹けない時の思いを捉えられるようにする。 対話的な学びの手だて ワークシートや役割演技でこぐまが練習を続けた時の気持ちを表現させることで、こぐまと自分を重ね、役割や責任感に気付くことができるようにする。

本時の流れ	教師の発問と児童の学びの姿	教師の手だて
自分の生活を見つめ、努力してできるようになったことと、その気持ちについて考える 教師の説話を聞く 振り返りをする	◎演奏会后、鳴りやまない拍手を聞いて、こぐまはどんな気持ちになったでしょう。 ・あきらめなくてよかった。 ・みんなと一緒に演奏でき、楽しかった。 ◎うまくいかなかったも、あきらめずに頑張ったことを紹介してください。 ・水に顔をつけるのがこわくてできなかったけど、お風呂でも練習を続けて、伏し浮きができた。お家の人も喜んでくれて嬉しかった。 ◎今日の学習で分かったこと、できたこと、考えたこと等を教えてください。 ・こぐまの気持ちを考えることをがんばったよ。	 ○適宜、補助発問や問い返しをして、多面的にこぐまの気持ちを考えることができるようにする。 深い学びの手だて 体育科での活動の写真を提示したり、1学期の学習を想起させたりすることで、自己を振り返ることができるようにする。  ○教師が自分の体験談を語ることで、ねらいの根底にある道徳的価値をより身近に考えられるようにする。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、一定の時間や内容のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしたい教師の手だてを示しています。

3 評価

以下の二つの視点から教師が見取り、授業改善につなげ、学期末の個人評価の参考資料とする。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

見取り方法：ワークシートや発表等から



- ・あきらめずに練習を続けてできるようになって、お客さんに見てもらいたいな。
- ・鍵盤ハーモニカの演奏で間違えても、あきらめずがんばる。

最後まで粘り強く取り組もうとする意欲の高まりを見取る。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

見取り方法：全体の交流場面やワークシート等から



- ・こぐまも嬉しかったけど、見に来ていたお客さんも喜んでくれたよ。
- ・跳び箱が跳べたよ。お家の人が喜んでくれて嬉しかったよ。

自分だけでなく、周りの人も嬉しい気持ちになることに気付いている姿を見取る。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

日常生活から道徳的問題を捉えさせる

自分自身の生き方の問題という実感を児童にもたせるために、日常生活から道徳的問題を考え、その解決に向かえるようにしましょう。

Point

多様な考えを促す

問い返しや揺さぶりをかける発問、また、主人公以外の別の立場の人物の気持ちを考えさせる発問等を行い、児童に一つの見方だけではなく、いろいろな見方から考えさせるようにしましょう。

Point

自分の生活を見つめる

自己の生き方について考えを深めるために、自分のこれまでの生活を見つめ、児童が気付きや自らの成長を実感する場の設定をしましょう。



授業づくりの視点

英語に慣れ親しむ活動や友達との関わりを大切にしたい体験的なコミュニケーション活動を行いましょう。

言語活動を設定し、見通しをもつ、慣れ親しむ、言語活動を行う、まとめと振り返りを行うという学習過程を意識しましょう。

「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」の音声面を中心として、コミュニケーションを図る素地を育成し、高学年の学びにつなげましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 ALPHABET [第3学年]

身の回りにあるアルファベットの大文字を取り上げることで、児童の文字への興味・関心を高め、大文字とその読み方に慣れる単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

身の回りにはアルファベットの文字で表されているものがあることに気付くとともに、アルファベットの大文字とその読み方に慣れ親しむようにする。

思考力、判断力、表現力等

自分の姓名の頭文字を聞いたり、話したりして、自分の考えや気持ち等を伝え合う力の素地を養う。

学びに向かう力、人間性等

相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝えようとする。

3 単元のデザイン 全4時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の見通しをもつ	◎自分のイニシャルの紹介をするという単元全体のイメージをもつ。 ・アルファベットがいろいろなところに使われているな。 ・先生のように英語で自己紹介ができるようになりたいな。
練習や言語活動、振り返りを重ねながら、語彙や表現に慣れ親しむ	◎自分のイニシャルの紹介をするために、必要なアルファベットの大文字とその読み方や伝えるための表現に慣れ親しむ。 ・アルファベットが読めるようになってきたよ。 ・友達に伝えるためにどのようなことに気を付けたらよいかな。
言語活動を行う 本時 単元を振り返り、次への課題をもつ	◎自分のイニシャルを紹介するという言語活動を行い、自分の伝えたいことが相手に伝わる楽しさに気付く。 ・自分のイニシャルをたくさんの友達に伝えたいな。 ・名前が違うのに、友達と自分のイニシャルは同じだったよ。 ・上手に友達に伝えることができたよ。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 自分の身の回りにあるアルファベットの大文字を探すことで、興味や関心を高めさせる。
- 自分のイニシャルの紹介をするという言語活動のモデルを見せて、単元の見通しをもたせる。

対話的な学び

- ペアや班で英語を使って コミュニケーションを行う場を設定し、アルファベットの大文字や表現を繰り返し用いることで、英語に慣れ親しませる。

深い学び

- 慣れ親しんだアルファベットの大文字や表現を活用して言語活動を行う中で、改善点に気付かせたり、全体に指導をしたりすることで、よりよい言語活動を行うことができるようにする。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしたい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第4時／全4時

本時のねらい

相手に伝わるように工夫しながら、自分のイニシャルを伝えようとする。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
学習の見通しをもち、めあてをつかむ めあて 自分のイニシャルを友達に伝えよう やり取りをしながら、使用表現に慣れる 【自分のイニシャルを伝えてカードを友達がとる】 やり取りを重ねながら、さらに自己表現の幅を広げる 【相手に自分のイニシャルを紹介できたら、カードを渡す】 学習内容をまとめる まとめ イニシャルを友達に伝えるためには、声の大きさ、表情、アイコンタクト等に気を付けると伝わりやすい 振り返りをする	◎ 終末で達成する言語活動のモデルを示し、本時のめあてをつかむ。 ・ KとFが聞こえたけど、何かな。 ・ Kevin先生のKだね。 ・ 自分のイニシャルを友達に伝えたいな。 ◎ 言語活動を体験することを通して、語句や表現に慣れ親しむ。 ・ 自分のイニシャルがちゃんと友達に伝わったよ。 ◎ 言語活動をよりよくするために、改善点を考える。 ・ 改善点を意識して友達に話すと伝わりやすくなったよ。 ・ 自分のイニシャルがきちんと友達に伝わるように、はっきりと言おう。  ◎ 本時で学んだことや気づきを言葉で表現し、自分の学びを自覚する。 ・ 友達の目を見ながら、イニシャルを伝えたいよ。 ・ 名前は違っても、イニシャルは同じで、おもしろいね。 	主体的な学びの手だて 自分のイニシャルの紹介をするという言語活動のモデルを担任とALTが実際に行うことで、児童に言語活動の見通しをもたせる。 ○ 聞こえたアルファベットとその組み合わせから、会話全体の内容を推測させ、自然な音声と場面から意味を聞き取ろうとする態度を育てる。 対話的な学びの手だて 同じ語句や表現を別の場面で繰り返し用いることで、使い方をよりよく理解できるようにする。 深い学びの手だて 言語活動は一度で終わるのではなく、児童にやり取りをさせた後に、改善点に気付かせたり、全体に指導をしたりする。そうすることで、児童全員が気づきや改善点を共有し、その後の言語活動をよりよく行うことができるようにする。 ○ 学級の中で同じイニシャルをもつ児童を紹介し、「名前は違ってもイニシャルは同じである」というイニシャルの面白さに気付かせる。 ○ 伝え方の工夫についての気づきを称賛し、全体で共有する。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

言語活動の見通しをもたせる

日本語で一方的に説明するのではなく、教師とALT等で言語活動のモデルを示すことで、行う言語活動を児童が理解できるようにしましょう。

Point

体験から慣れ親しませる

児童が体験的なコミュニケーション活動を実際に行う中で、表現に慣れ親しむこと、英語を使用する楽しさを感じることを大切にしましょう。

Point

改善点に気付かせる

言語活動を行う中で、児童が本時のそれまでの活動を振り返る場を設定し、言語活動をよりよく行うための改善点等に気付かせましょう。そして、その後、気づきを生かしながら言語活動を行う場を再度設定しましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。

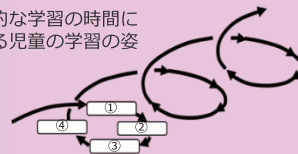


授業づくりの視点

各教科等で身に付けた資質・能力をどの学習活動でどのように活用すればよいのかを考えながら進めましょう。

単元を通して①課題の設定、②情報収集、③整理・分析、④まとめ・表現の一連の探究のプロセスを繰り返すように設定しましょう。

総合的な学習の時間における児童の学習の姿



授業実践事例

1 目標を実現するにふさわしい探究課題

地域学習【第3学年】

児童が生活している地域の魅力について、訪問して聞く等の情報収集、整理・分析、まとめ・表現という一連の過程を繰り返す事を通して、地域の魅力を「お宝」として再発見する単元である。

2 探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

地域の人々が伝統や文化を保護・活用し、大切に受け継いでいることを理解する。

思考力、判断力、表現力等

施設や人、行事、自然等様々な視点から地域の魅力に関心をもち、調べたいことを見付け、地域の人や家族、友達と進んで関わりながら調べたり、まとめたりする。

学びに向かう力、人間性等

地域の魅力をまとめる取組を通して、地域のよさに気付いたり、地域の人々に支えられながら生活していることに気づき、地域を大切にしていこうとする気持ちを育む。

3 単元のデザイン

全40時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
身近な地域の施設を知る 【課題の設定】 【情報収集】（体験） 【整理・分析】 【まとめ・表現】 （次の課題設定）	◎ 社会科の地域探検を振り返り、地域の施設について知っていることを伝え合う。 ・ 科学館ならよく行っているし知っているよ。 ・ 科学館の中に石器等を調査する部屋があるなんて知らなかった。 ・ 「何人で調査をしているの」等、聞きたいことがまだまだあるぞ。 ◎ より詳しく知るために、繰り返し訪問し、新たに知ったことも併せてまとめる。 ・ 聞いた内容をまとめるために、まずは付箋に書き出して整理してみよう。 ・ この発表で、聞いた内容をしっかり伝えることができたかな。 ・ 他のお宝も調べたいな。
地域の他の特徴を考える 【情報収集】（体験） 【整理・分析】 【まとめ・表現】	◎ 視野を広げ、地域には、他にどんなお宝があるか調べる。 ・ 地域のお宝がたくさん集まったな。 ・ 調べた情報を分類すると同じものもあるね。 ・ なぜ、地域のお宝と言えるのかな。情報を基に理由も考えよう。 ・ みんなの発表を聞くと、地域には、いろんなお宝があることが分かったね。 ・ 調べてまとめたことを参観日で発表するとドキドキしたけど伝わったかな。
伝えたいことをまとめる 【課題の設定】 【整理・分析】 【まとめ・表現】	◎ 地域を調べて見付けたお宝を、他の学級や2年生にどう伝えるかを考える。 ・ ここまで調べた内容を、他の学級や2年生にどう伝えようか。 ・ 分かりやすいように、パンフレットにまとめたらどうだろう。 ・ 友達の発表を聞いていると、さらに知りたいと思うことが多くあった。地域にはいろんなお宝があるよね。まとめは大変だったけど、すごく楽しくできたよ。

本時

○本单元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○探究課題を見付け、主体的に解決しようとする等の探究のプロセスのサイクルを繰り返し設定し、それぞれの過程を、児童が意識できるようにする。

対話的な学び

○友達と協働して課題を解決するために、自分の考えたことを伝え合ったり、学級や班で考えを集約したりする等の場を設定する。

深い学び

○振り返りの時間を確保するだけでなく、その視点も示し、聞き手を意識した発表の仕方等の新たに身に付けた資質・能力の自覚ができるようにする。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開

第31時／全40時

本時のねらい

班ごとにパンフレットに載せたいお宝とそれを選んだ理由を説明し合い、各班の発表内容についてよかったところや改善点を考えることができる。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
前時までの学習を思い出し、本時のめあてをつかむ めあて 班でまとめたお宝について、よりよい発表になるよう準備しよう 班での話し合いをもとに発表し、発表の工夫について助言し合う 取組をまとめる まとめ 他の班の助言を参考に、よりよい発表にする修正点に気付いた 振り返りを行う	◎前時の学びを振り返り、本時のめあてを考える。 ・前の時間は地域の特徴（お宝）を班でまとめたので、今日は班発表をします。 ◎前時にまとめた内容をどう発表するかを話し合う。 ・私が全体の進行をします。 ・私は前半の発表をします。 ◎他の班の発表を聞き、よりよい発表にするために助言する。 ・地図があった方が、場所がよく分かると思う。 ・お宝を選んだ理由を書いた方がよく伝わると思う。 ・よく伝わるまとめをしているから、もっと自信をもって発表すればいいと思う。 ◎本時の学習を振り返り、今後の取組の見通しをもつ。 ・他の班からの助言を基に、お宝のまとめ方の改善点を考えることができた。 ・なぜ調べようと思ったかの理由等、聞いてくれる人を意識してまとめたい。 ・まとめだけでなく、発表についても練習したい。	主体的な学びの手だて 探究のプロセスを提示し、本時がどの過程で、今日は何をすればよいのかについて、児童に考えさせ、本時のめあてをつくる。 ○前時にまとめた資料を見ることで、内容を想起するとともに、進行や発表等、班内の役割分担を確認させ、スムーズな発表につなげる。 対話的な学びの手だて 発表を聞く視点（よかった点、改善点）を示した助言シートを基に他の班の発表を聞き、よりよい発表に向けて相互に助言できるようにする。 深い学びの手だて 三つの視点（よく考えたこと、もっとよくしたいこと、次にやりたいこと）から振り返り、その内容を発表することで、今後の学級全体の活動イメージがもてるようにする。

Point

めあてを主体的につかませる

探究のプロセスを児童に意識させ、思いに寄り添いながら本時のめあてをつかむことができるようにしましょう。

Point

考えを整理する技法の活用

聞く視点を示したワークシートを活用し、聞き手としての自分の考えを整理し、他班の改善につながる助言ができるようにしましょう。

Point

視点をもたせた振り返り

振り返りは、毎時間同じ視点で書くことで、内省を促すようにしましょう。また、発表することで、学級全体で共有するようしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

各教科等で児童が学んだ知識や技能を、教師が関連付けて整理しておき、特別活動における集団及び個人の問題解決のために活用できるようにしましょう。

学級活動（１）では、「事前の活動」「本時の活動」「事後の活動」といった一連の活動を児童が主体的に行うことによって、自発的、自治的な学級の生活づくりが展開されることとなります。学習過程を明確にした授業づくりを行いましょう。

授業実践事例

1 議題の概要 卒業アルバムの学級ページを考えよう【第6学年】 学級活動（１）

小学校生活の思い出が形として残る卒業アルバムの学級ページについて、友達の意見を否定するのではなく、どのような価値があるのかに目を向けながら話し合い、学級全体にとってよりよい合意形成を行い、決まったことについて友達と協力して取組を進める議題である。

2 活動を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

卒業アルバムの価値や、卒業アルバムの学級ページの内容について、学級全体としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方等について理解する。

思考力、判断力、表現力等

卒業アルバムの学級ページの内容を話し合う中で、自分の役割や責任、学級全体としてのよりよい内容や方法等について考え、互いに信頼し支え合って実践する。

学びに向かう力、人間性等

卒業アルバムの学級ページづくりに関心をもち、友達と協力して話し合ったり、実際にページを作成したりすることに取り組もうとする。

3 活動のデザイン

本活動の流れ	児童の学びの姿
○事前の活動 活動の見通しをもつ	◎議題である卒業アルバムの学級ページについてのイメージをつかむ。 ・家族にインタビューしてみると、卒業アルバムの大切さがよく分かった。 ・自分たちにとって価値ある内容を書けるために、みんなで話し合いを深めたい。
○本時の活動 みんなで話し合って合意形成をする 本時	◎みんなでよりよい学級ページの内容を決める。 ・様々な意見が挙がってきたが、意見を組み合わせたり、よいところを基にして新たな意見を生み出したりすると、自分にとってもみんなにとってもよいものに決めることができるんだな。
○事後の活動 活動について振り返り、まとめる	◎決まったことを基に、学級ページに載せる具体的な内容やデザインを決め、アルバムを作成して振り返る。 ・現在の素直な思いを学級ページに書くことで、将来、卒業アルバムを見た時にきつとなつかしく思えるだろう。 ・自分事として本気で話し合うことができたから、すてきなアルバムになったぞ。

○本活動における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 卒業アルバムについて、家族にインタビューしたり、家族から卒業アルバムを見せてもらったりする場を設定する。
- 提案理由や話し合いのめあて等を掲示して見通しをもたせる。

対話的な学び

- 「出し合う・比べる・まとめる」といった流れで話し合いを行うようにしておき、話し合いが可視化された板書を位置付けることで、互いの意見に目を向けやすくする。

深い学び

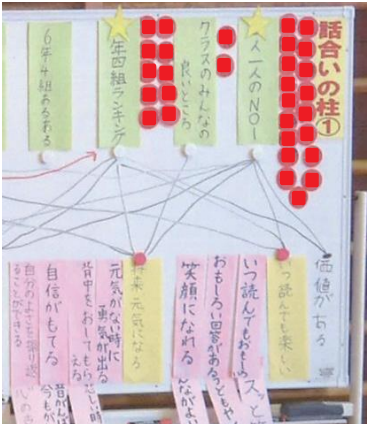
- 話し合った過程や内容を教室に掲示しておくことで、みんなの願いとして挙げられた複数の視点を関連付けやすくする。
- それぞれの意見に対する理由や根拠を確認するように促す。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしたい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開

本時のねらい

提案理由や話し合いの視点を基に、個人の思いや学級にとっての価値に着目しながら話し合いを進め、学級ページを考えることができる。

本時の流れ	児童の学びの姿	教師の手だて
1 はじめの言葉 2 司会班の自己紹介 3 議題「卒業アルバム」の学級ページを考えよう」の確認 4 提案理由やめあての確認 5 決まっていること・視点の確認	◎司会班から提案理由や話し合いの視点等が確認されたことを基に、よりよい意見は何かについて考えるという見通しをもつ。 ・卒業アルバムは、未来の自分たちを元気にしてくれるものだったな。提案理由を意識して話し合っていくぞ。 ◎出された意見とその意見がもつ価値について比べ合う。 ・「将来の夢」の意見は、学級ページではなく、「各自のプロフィール」に入れてもいいのではないかな。 	主体的な学びの手だて 提案理由や話し合いの視点等を黒板に掲示して確認することで、話し合う内容について共通理解できるようにする。 対話的な学びの手だて 赤色（賛成）の印で児童の意見の可視化を図り、話し合いの状況等を整理された板書で示す。出た意見とその価値を掲示し、線で結ぶように黒板係に伝えておく。 ○事前の活動において、司会班とタイムスケジュールを確認しておくとともに、話し合いの流れに応じて重点的に話し合う内容を学級全体で共通理解を図るようにする。 深い学びの手だて 選ばれなかった意見についても、他の内容との統合を検討したり根拠を見極めたりすることを投げかける。 ○「先生の話」では、司会を担当した班のがんばりや新たな視点や価値で意見を捉え直すことができた児童を称揚したり、事後の実践に向けて、みんなで協力してよりよい学級ページにしていくことを助言したりする。
話し合いのめあて 自分やみんなにとってより価値のある意見はどれか考えながら発言したり、友達の意見を聞いたりしよう	◎提案理由等を踏まえて、学級ページの内容を決定する。 ・個人的な内容より、学級全体の内容の方がふさわしいと考えを修正したぞ。決定する根拠がみんなの願いに沿っていることが大切なんだな。 	
6 話し合い 7 決まったことの確認 8 話し合いの振り返り 9 先生の話 10 終わりの言葉		

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

話し合う内容の確認

児童自ら課題を見だし、本気で解決したい内容を議題に取り上げるようにしましょう。その際、提案理由等を明確にして話し合えるように示しておくことを大切にしましょう。

Point

話し合いの流れの可視化

話題の中心や賛成意見の数等を黒板に視覚的に位置付けるようにしましょう。その際、色分けをしたり線で結んだりして分かりやすく位置付けておくことで、児童自身が意見を比べられるようにしましょう。

Point

理由や根拠の確認

少数意見を大切にしながら互いの意見を精査して、折り合いを付けた話し合いができることを目指しましょう。その際、それぞれの意見が出された理由や根拠を明確にすることを大切にしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

身に付けたい力を育成するために、価値ある言語表現に着目し、考え、表現できるよう言語活動を設定しましょう。

「読むこと」の領域では、「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成、共有」という学習過程における指導事項を確認した上で、単元のまとまりで授業を構想しましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 「走れメロス」の魅力について、意見交流会をしよう【第2学年】 C読むこと

作品の魅力について、読み取ったことを知識や経験と結び付けて自分の考えをまとめ、その意見を交流することを通して、自分の考えを広げたり深めたりする単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、発表したり文章表現したりすることを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。

思考力、判断力、表現力等

複数の情報を整理しながら、登場人物の言動の意味などを考え、解釈した内容や考えたことを既習の知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。

学びに向かう力、人間性等

目的や意図に応じ、内容や表現の仕方に注意して文章を読み、自分で言葉を選び豊かに表現しようとする。

3 単元のデザイン

全8時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元の見通しをもつ 作品全体の内容をつかむ	◎意見交流会に向けて作品の魅力をもとめるという単元全体のイメージをつかむ。 ・自分の好きな名言や名場面を選び、みんなの感想が聞けておもしろそうだ。
名言や名場面の感想を交流して自分の考えを広げ深める 作品の魅力について自分の考えをまとめる	◎作品の中の名言や名場面を選び、理由を付けて班で発表し、お互いに感想を交流する。 ・自分とは違う見方があり、自分の考えを広げる参考になった。 ・友達の選んだ名言とその理由等を聞くと、自分も共感できるところがあった。 ・友達の意見に感想を伝えることで、自分の考えが整理できた。
意見交流会をする 単元のまとめをする	◎単元を通して学んだ作品の魅力を、自分の知識や経験と結び付けてまとめ、学級で意見交流会をする。 ・友達の意見を聞き、新しい発見があって作品の魅力を自分で再考できた。 ・作品の魅力を表現するために、既習の読み方や語句を使うことができた。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 「意見交流会」という言語活動を通して、「読むこと」の単元への見通しをもたせる。
- 学習計画表等を基に単元で学習することを確認させる。

対話的な学び

- 名言や名場面を選び、選んだ理由を付けて発表し、お互いに感想を交流させる。意見を比較したり、理由を述べたりすることで考えを深められるようにする。

深い学び

- 知識や経験と結び付けて、価値ある言語表現に着目し、考えさせることで、豊かな表現にする。
- 思考を深めるために語彙集を示して活用させ、語彙力を養う。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開

第4時／全8時

本時のねらい

「走れメロス」の名言を選んで発表し、感想交流を通して、自分の考えをまとめることができる。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手だて
学習の見通しをもち、本時のめあてを確認する めあて 名言について発表し、感想を交流しよう 班で自分の考えを発表する 友達の発表に対して感想を伝え合う 学習内容をまとめる まとめ 名言に着目して発表し、感想を交流することで、自分の見方や考え方が深まる 振り返りをする	◎ 学習計画表で前時を振り返り、教師が例示した名言の発表の仕方を見て、本時のめあてを捉える。 ・班発表を通して、自分の考えをまとめていくんだな。 ・自分が発表するだけでなく友達の発表へ感想を伝えることが必要なんだな。 ◎ 4人班になり、自分で選んだ名言ベスト3を理由も付けて発表する。 ・自分と違う王様の言葉を選んでいておもしろいな。 ・メロスの言葉は読み手を引き付けられる力があるな。 ◎ 発表のよかった点やその理由、新しく気付いたこと等、お互いに友達の意見について感想を交流する。 ・友達が選んだ「私も殴れ」の言葉とその理由を聞き、2人の友情の深さに気が付いた。 ・先生のアドバイスで、メロスの言葉の意味が新たに読み取れて、考えがまとまった。  ◎ 本時の学習を振り返り、次回の学習への見通しをもつ。 ・友達に自分の感想を伝えることで自分の考えが整理できた。次は名場面を学習するんだな。	主体的な学びの手だて 学習計画表と名言発表の型を例示することで、本時の見通しとめあてをつかませる。 ○授業内容と家庭学習をつなぐために、宿題で発表用原稿を推敲させる。教師は机間指導の中で内容を確認して、できている内容に丸を付けたり、具体的にほめたりする。 対話的な学びの手だて 他者の見方や考え方を知り、自分の考えと比較できるように4人班で伝え合う場を設定する。発表の際には、選んだ理由も付けて発表させる。 深い学びの手だて 選んだ名言と解釈が適切かどうかを評価したり、語彙集を使用して、よりの確な表現はできないかを考えさせたりする。その際、人物設定や場面展開等、優れた表現に着目して、考えるように助言する。見本となる表現は称賛して、全体へ紹介する。 ○名言を選び、理由を付けて発表して感想を交流できたか、作品に対してどのような考えがもてたか等について、学びの振り返りをさせる。

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

見通しをもたせめあてを確認

単元の流れを示した学習計画表等を基に、本時の位置付けを確認しましょう。その際、身に付ける力を意識して、何について学習するのか等、見通しがもてるようにしましょう。

Point

目的や意義を明確にした話し合い

生徒が考えを友達と比較し自分の考えをもつために、違いや理由等を伝え合う機会を設定しましょう。目的や意義を明確にし、教師がペアや班等の適切な形態を設定しましょう。

Point

「言葉」に着目させる支援

教師が個別に学びを見取り、丸を付けたり、助言したりして、学びを価値付けましょう。その際、「言葉」に着目して、理解させたり、表現させたりすることを大切にしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

自分と社会との関わりを意識した課題を発見し、資料を集めて分析した後に、結果や分かったことをまとめる等の計画を立てる場面を設け、生徒が見通しをもてるようにしましょう。

課題について選択・判断したり、比較したりする際に、政治的な面から考えるとどうか、外国の立場から考えるとどうか等、多面的・多角的に話し合いができる授業づくりを工夫しましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 日本の諸地域～中部地方～【第2学年】

中部地方の各産業がどのように発展・変化してきたかについて、位置や分布等の地理的な見方・考え方を働かせながら、その理由や経緯を追究し、現在はどのような特色をもつ地域であるかを捉える単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

中部地方の三つの地域では、地形や自然環境等により異なる産業が発達したことを理解する。また、それぞれの地域の産業の特色を理解する。

思考力、判断力、表現力等

中部地方の地域的特色を、産業を中核とした考察をもとに多面的・多角的に地域的特色を捉え、その過程や結果を友達に分かりやすく表現する。

学びに向かう力、人間性等

中部地方の特色について、進んで思考・表現しようとしたり、社会的事象と自分との関連性に気付き、本単元で学習したことを自らの生活に生かそうとしたりする。

3 単元のデザイン

全5時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元の課題をつかむ	◎産業の視点から見た中部地方の特色に関心をもつ。 ・今までに習った他の地方と比べると、盛んな産業の特色が分かりそうだ。 ・中部地方には富士山があるから、観光業が発達しているのではないかな。
東海地域で工業が発達した理由について読み取る	◎東海地域で工業が発達した理由について、資料を根拠に予想する。 ・名古屋港があり、製品の輸送に便利だから、工業が発達したのではないかな。 ・東海地域は人口が多いから、工場で働く人には困らないだろう。
名古屋大都市圏と他地域の結び付きについて理解する	◎中部地方と、世界との結び付きについて考えたことを伝え合う。 ・環太平洋経済圏構想により、ロシアや中国との交流が盛んになっているな。
単元のまとめをする	◎分かったことや考えたことをまとめ、今後の授業や自らの生活に生かす。 ・交通の便がよく、水が豊富に得られることは、工業以外の産業でも重要だ。 ・私達の地域にはインターチェンジがあるから、部品工場が多いんだな。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 人口や産業の集中等の社会的事象から課題を見いだす場を設定することで、学習課題を自分事として捉えさせる。
- 単元全体を学習記録を基に振り返らせ、次の単元につなげる。

対話的な学び

- 中部地方の産業の特色について自分の考えを友達に伝えた上で、自分の考えとの違いを比べる場を設定することで、自分にはない新しい視点に気付かせる。

深い学び

- 農業、工業、観光業等の産業が発達した理由について、その理由は他の産業についても言えることなのかを問うことで、考える視点を広げさせ、概念的な知識を獲得させる。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしたい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第2時／全5時

本時のねらい

東海地域で工業が発達した理由について、自然的条件や社会的条件と関連付けながら追究し、自分の考えをまとめることができる。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手だて
本時のめあてをつかむ めあて なぜ東海地域で工業が発達したのかについて、資料を根拠に説明しよう 予想した理由について友達と比較し、自分の考えを発表する 工業が発達した理由を、既習の他の産業に当てはめる 学習内容をまとめる まとめ 東海地域は交通の便がよく、水が豊富に得られる等社会的・自然的条件に恵まれているため、工業が盛んになった 振り返りをする	◎ 学習の見通しをもつ。 - 今日は中部地方の産業の中でも、特に東海工業地域について学習するのだな。 - 前の単元で行った、資料収集の方法やまとめの仕方は、この単元でも使えそうだな。 - なぜ東海工業地域で工業が発達したのかな。理由を説明するためには、どんな資料が必要だろう。 ◎ 予想した理由を裏付ける資料を選択し、それを根拠に互いに考えを発表する。 - 工業が発達したのは、Aさんが理由に挙げた名古屋港があることに加え、水を豊富に利用できる濃尾平野があるからだと思ふ。 ◎ 工業発達についての考え方について、他の産業には応用できないかを検討する - 交通の便がよいことや、人口が多くて働く人も多いこと、水が豊富にあること等は、農業にも必要なことだな。 - 産業を発達させるためには、道路や河川のインフラ整備が必要だな。 ◎ 学習して分かったことや、自分で考えたことをまとめる。 - 工業発達のためには、交通の便や資源だけでなく、歴史や伝統も関係しているんだね。 - 他地域の工業発達の経緯についても、調べてみたいな。	主体的な学びの手だて 東海工業地域を上空から撮影した動画を提示し気づきを発言させることで、本時の学習に見通しをもたせる。  対話的な学びの手だて 工業が発達した理由について、自分の考えやその根拠をもたせた上で話し合う場を設定し、友達の考えを踏まえながら自分の考えを発表させる。 深い学びの手だて 「皆さんが挙げた工業発達の理由は、工業についてのみ言えることですか」と問うことで、既習の他の産業にも考えを巡らせる等、生徒の考える視点を広げさせる。 ○ 次時の学習につなげるため、工業発達の理由について、新しく気付いたこと、考え方が変わったこと、もっと調べてみたいこと等を記述させる。 

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

生徒の疑問に基づいた問いの設定

社会的事象を提示し、「なぜ」「どのようにして」等生徒の疑問を大切に問いを立て、めあてを自分事として捉えさせるようにしましょう。

Point

視点を広げる話し合いの場の設定

社会的事象についての考えを交流させる際には、友達の考えを踏まえながら自分の考えを発表させる等、話し合いながら新しい視点に気付かせたり、自分の考え方を広げさせたりしましょう。

Point

他の社会的事象に応用できる発問

生徒が考えている内容について、他の社会的事象についても応用できるかどうかを考えさせる発問を行いましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

数量の関係に着目する「見方」と、表、式、グラフ等を活用し、既習の知識、技能と関連付けながら論理的に考える「考え方」を働かせながら、より質の高い学びにつなげましょう。

「日常の事象を対象とした問題解決の活動」「表、式、グラフ等、数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動」といった数学的活動を充実させ、数学的に考える資質・能力を育みましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 変化と対応〔第1学年〕

小学校算数の学習内容を踏まえ、変域を負の数まで拡張し、数量の変化や対応に着目して見いだした関数関係の特徴を表、式、グラフ等に表したり、関数関係を根拠に論理的に説明したりする力を養う単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

関数関係の意味、比例や反比例の意味、座標の意味について理解する。比例や反比例の関係を表、式、グラフ等に表す。

思考力、判断力、表現力等

伴って変わる二つの数量について、表、式、グラフ等を用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだす。具体的な事象を比例、反比例を用いて捉え表現する。

学びに向かう力、人間性等

比例や反比例と捉えることで問題解決できるよさに気付き、比例や反比例の関係を利用して大量にあるものの個数を求めたり、視力検査の仕組みを説明したりしようとする。

3 単元のデザイン 全18時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
関数関係を理解し、単元の見通しをもつ	◎ 伴って変わる二つの数量の関係について調べる。 ・ 小学校で習った比例や反比例と何が違うのかな。 ・ 一方が決まったらもう一方も決まるという関係が関数だと分かった。
比例の関係を調べる	◎ 比例の関係を表、式、グラフ等で捉える。 ・ 比例の関係は $y = ax$ という式で表されるということが分かった。 ・ グラフは原点を通る直線になるんだな。
反比例の関係を調べる	◎ 反比例の関係を表、式、グラフ等で捉える。 ・ 反比例の関係は $y = a/x$ という式で表されるということが分かった。 ・ グラフは双曲線というなめらかな曲線になるんだな。
比例や反比例の関係を利用して、身の回りの問題を解決する 本時	◎ 比例や反比例の関係を利用して、身の回りの問題を解決する。 ・ 比例の関係を利用すると、自分の待ち時間を予測できた。 ・ 視力検査に使う図に反比例の関係が使われていると知って驚いた。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 具体的な場面から課題を設定することで問いを引き出し、解決に向けて見通しをもって粘り強く取り組めるようにする。
- 単元を振り返り、関数の考えのよさを実感できるようにする。

対話的な学び

- 表、式、グラフ等、数学的な表現を用いて説明し合うことで異なる考えに気付いたり、考えの共通点を話し合うことで表、式、グラフを相互に関連付けて理解したりできるようにする。

深い学び

- 数量の関係に着目し、表、式、グラフ等を用いて特徴を捉え、比例や反比例の関係を見いだしたり、その特徴を利用して未知の状況を予測したりできるようにする。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしたい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第16時／全18時

本時のねらい

ジェットコースターの待ち時間と乗った人数の関係を比例とみなし、比例の考えを基に乗るまでの時間を予測することができる。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手だて
問題場面を知り、本時のめあてをつかむ	◎問題場面から問いや、解決への見通しをもつ。 ・自分は何時間待ったら乗れるのだろう。 ・比例の関係であるといえるのなら、自分の待ち時間が予測できそうだ。	主体的な学びの手だて 長い行列に並んだ経験を想起させた上で問題文を示し、ジェットコースターに乗るまでの時間を予測できるかと問うことで、生徒に問いをもたせ、めあてをつかみやすくする。
めあて ジェットコースターに乗るまでの待ち時間を、数学を使って予測しよう	◎待ち時間と乗った人数の関係が比例かどうか調べる。 ・表から比例の特徴があるかどうか調べてみよう。 ・グラフに表してみよう。	○変化の様子に着目させ、既習の比例の特徴を有しているかどうかを表やグラフで判断できることに気付かせる。
表やグラフを用いて関係を調べる	◎比例の関係であるとみなしてよいか話し合う。 ・待ち時間が2倍、3倍になると乗った人数もだいたい2倍、3倍になっているから比例だとみなしてよい。 ・グラフの点はだいたい原点を通る一直線上に並んでいるから比例だとみなしてよい。	対話的な学びの手だて 表やグラフから捉えた特徴を根拠に自分の考えを説明し合い、待ち時間と乗った人数の関係が比例の関係であるとみなしてよいか判断する活動を設定する。
比例の関係であるとみなしてよいか判断し、その根拠を数学的な表現を使って説明する	◎自分の待ち時間を予測する。 ・待ち時間と乗った人数の関係を式で表し、並んでいる人数を代入すれば自分の待ち時間が分かる。 ・自分の待ち時間をx分として、時間と人数についての比例式を解けばよい。	○式に表して並んでいる人数を代入したり、並んでいる人数に対応するグラフの座標を読み取ったりして予測するよう伝える。
比例の考えを基に、待ち時間を予測する	◎身の回りの問題には比例とみなすことで解決できることがあることに気付く。 ・現実では、誤差やばらつきがあっても比例の考えが使えることが分かった。	深い学びの手だて 誤差やばらつきがあっても、比例の関係であるとみなすことで、未知の状況を予測できたことを確認して、関数が身の回りの問題の解決に利用されていることに気付かせる。
学習内容をまとめる		
まとめ 二つの数量の関係を比例とみなすことで、比例の関係をj用いて未知の状況を予測できる		
振り返りをする		

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

問いや見通しをもたせる

具体的な場面を設定したり、既習事項との関連を示したりして、生徒の問いを引き出し、課題解決に向けた見通しをもたせるような導入を工夫しましょう。

Point

数学的な表現を用いた話し合い

表、式、グラフ等、数学的な表現を用いて自分の考えを説明したり、友達の考えと比較したりして、新たな考えを見いだしたり、表現を洗練したりできるような話し合い活動を設定しましょう。

Point

学びの手応えを実感させる

板書を基に学習過程と結果を確認し、本時で何をどのように学んだのかを自分の言葉でまとめられるようにして、生徒が学びの手応えを実感できるような振り返りの活動を工夫しましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

生徒が見通しをもって課題や仮説の設定、観察・実験の計画の立案をしたり、観察・実験の結果を分析・解釈して仮説の妥当性を検討したり、振り返って改善策を考えたりする等の学習場面を設定しましょう。

課題の把握（発見）、課題の探究（追究）、課題の解決という探究の過程を通じた学習活動を行い、各過程において資質・能力を育成するようにしましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 運動の規則性〔第3学年〕

観察、実験を通して物体の運動の規則性を見いだして理解し、観察、実験の技能を身に付けるとともに、学習から見いだした「実験室で台車を等速直線運動させる」という課題を探究の過程を通して学ぶ単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

物体の運動を日常生活や社会と関連付けながら、運動には速さと向きがあることを知り、力が働く運動及び力が働かない運動についての規則性を見いだして理解するとともに、それらの観察、実験等に関する技能を身に付ける。

思考力、判断力、表現力等

物体の運動について、見通しをもって観察、実験等を行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現する。また、探究の過程を振り返る。

学びに向かう力、人間性等

物体の運動に関する事物・現象に進んで関わり、それらの事物・現象の理解が深まることによって見いだした等速直線運動に関わる課題を解決しようとする。

3 単元のデザイン 全10時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元に見通しをもち、運動の規則性について学ぶ	◎日常生活や社会と関連付けながら、観察、実験を通して、物体の運動について規則性を見いだす。 - 運動には速さと向きの要素があり、記録タイマーで運動の様子が分かるね。 - 物体に働く力によって等速直線運動をする等、運動の規則性があるね。
台車を等速直線運動させる方法について探究する ・実験の計画 ・実験の実施・考察 ・表現（発表）	◎学習した内容や科学的に探究する方法を基に、見通しをもって粘り強く、科学的に探究する。 - 台車にはたらく摩擦力について考えれば解決できそうだな。 - 実験結果を基に改善策を考えて、再度実験をするとより考えが深まるね。
単元のまとめをし、振り返る	◎科学的に探究した活動を振り返る。 - 日常でも等速直線運動をしている物体はたくさんあるね。 - 課題を解決することって楽しいな。理科って面白いし、学ぶことが大切だね。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○台車を理論通り等速直線運動させるという課題について、見通しをもって実験計画を立てたり、実験を繰り返して改善策を考えたりする学習場面を設定する。

対話的な学び

○他の班と実験計画を比較し考えを広げ、より妥当なものにする。
○ポスターにまとめて発表させ、科学的な根拠に基づいた議論をする学習場面を設定する。

深い学び

○台車が等速直線運動をしない原因を関係的な視点で捉えさせたり、実験を計画する際に条件制御を意識させたりする。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしたい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第7時／全10時

本時のねらい

既習の知識や経験を活用して、実験室で台車を等速直線運動させるための実験計画を立てることができる。

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手だて
本時のめあてをつかむ めあて 実験室で台車を等速直線運動させる実験を計画しよう 個人で考えた後、班で話し合い、考えられる原因を検討する 他の班の考えも参考に、より妥当な実験計画を立てる レポートに実験計画をまとめ、実施に向け役割分担を行う 学習内容をまとめる まとめ 実験室で実施可能な計画を話し合って立てることができた 振り返りをする	◎ 実験室で台車が等速直線運動を続けなかった実験を想起し、本時のめあてをつかむ。 - 実験室で、理論通り台車を等速直線運動させたいな。 1時間でできる実験にするためにどのような方法ができるのかな。 ◎ 台車が等速直線運動を続けない原因を、既習の知識や経験を活用して考える。 - 空気抵抗や床と台車との摩擦が原因じゃないかな。  ◎ 実施可能な実験計画を立て、レポートにまとめる。 - 斜面を下る台車には一定の大きさの力が加わっていたね。 - 斜面の傾きを変えて摩擦力と同じ大きさの力を加えよう。 - 他の班は、洗剤を塗って摩擦を小さくしようとしていたよ。 (3) (2)の解決方法 ① 空気抵抗、摩擦力をなくす ② 空気抵抗、摩擦力とつり合う力を加え続ける (4) (3)を実行するための具体的な実験方法・使用器具 器具 空気抵抗、摩擦力などの減速させる力 とつり合う力とつり合わせる力 ・ 木の板 ・ 台車 ・ 記録テープ 実験方法 木の板の角度を変えて、等速直線運動をする角度を探す。 〔レポートの例〕 ◎ 実験計画をまとめたレポートを基に、学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 - 授業で習ったことを使って考えることが大切だね。 - 摩擦を減らす方法は考えられたけどうまくいかなかった。	主体的な学びの手だて 理論と実際の実験結果のずれに着目させて意欲を喚起し、実験で利用できる器具や時間、場所等を示すことで、見通しをもって実験計画を立てる学習場面を設定する。 深い学びの手だて 等速直線運動をしない原因は何かという関係的な視点で考えさせることで、これまでの学習で身に付けた条件制御等の科学的に探究する方法を意識した実験計画の立案につなげる。 対話的な学びの手だて 情報収集係（班1名）が他の班の計画を見て回る時間を設け、収集した情報と自分たちの班の考えを比較させることで、より妥当な実験計画を考えるようにする。 ○力のつり合い等の既習の知識や日常生活と関連付けて考えることができるように、複数のヒントカードを用意し、補助的に活用するように促す。 ヒントカード⑤ 生活の中で等速直線運動しているものの例（1） ヒントカード⑥ 一定の速さで走る自動車  〔ヒントカードの例〕 ○実験計画を立てるときに意識したことや実験を実施するときのポイントを振り返ることで、次時に行う実験の見通しがもてるようにする。

Point

探究の過程を意識した学習

探究の過程を意識した学習場面を設定し、生徒が知的好奇心をもって学習に取り組むとともに、見通しをもって実験計画の立案等ができるようにしましょう。

Point

見方・考え方を働かせる

関係的な視点を示したり、既習の条件制御等の考え方を想起させたりする等の手だてを行い、生徒が「理科の見方・考え方」を働かせることができるようにしましょう。

Point

根拠に基づいた話し合い

自分の考えを他者と比較したり、科学的な根拠に基づいて議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする話し合い活動にしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

授業の導入では、音楽の特徴と背景となる文化や歴史との関連を理解させる等、興味や関心を高める工夫をしましょう。

音楽によって喚起されたイメージを共感するコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を設定しましょう。

音楽のよさや美しさを感じ取らせることで、一人一人の学習の深まりにつながるようにしましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 作曲者の思いを感じ取りながら曲を聴こう【第3学年】

「ブルタバ」の音楽を形づくっている要素（音色、速度、旋律、強弱）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。また、作曲者の活躍した時代背景に関心をもち、その音楽の特徴を時代背景と関連付けて作曲者の思いを感じ取りながら鑑賞する題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりを理解する。

思考力、判断力、表現力等

鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

学びに向かう力、人間性等

主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

3 題材のデザイン 全2時間

本題材の流れ	生徒の学びの姿
「ブルタバ」の音楽から、川のどのような情景を表現しているか想像して聴く	◎音楽の特徴から、どのような情景を表しているのか考える。 ・「我が祖国」を聴いて情景をイメージしてみよう。 ・「ブルタバ」の音楽の特徴は何だろう。 ・想像できる情景や川の流れなどをイメージしてみよう。
時代背景から作曲者の思いを考え、曲のどの部分にどのように表現されているか感じ取りながら聴く 本時	◎作曲者の思いがどのように表現されているか感じ取りながら聴く。 ・「プラハの春音楽祭」について説明を聞いて、楽曲のよさを考えてみよう。 ・DVDで1曲全て視聴し、様々な情景描写や感情、曲のイメージを感じ取ってみよう。 ・作曲者がブルタバを表す旋律に込めた思いは何だろう。

○本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○音楽の特徴と背景となる文化や歴史を想起させることで、音楽表現への興味や関心をもつことができるようにする。

対話的な学び

○音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする等の言語活動を充実させることで、音楽表現を高めることができるようにする。

深い学び

○曲想や構造に着目し、音楽の背景と曲想との関わりや音楽文化について考えさせることで、曲のよさや美しさを捉えることができるようにする。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしたい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第2時／全2時

本時のねらい

作曲者の思いがどのように表現されているか感じ取りながら聴くことができる。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手だて
めあてをつかみ、学習の見通しをもつ	◎前時までの学習内容を確認し、 本時のめあてをつかむ。 ・スメタナが活躍していた当時の時代背景や心情が確認できた。	主体的な学びの手だて 「我が祖国」を聴き、曲想と音楽の構造との関わりを考えた前時の学習を想起させた上で、「プラハの春音楽祭」を紹介し、作曲者の思いと表現の仕方に興味・関心をもたせる。
めあて 作曲者の思いがどのように表現されているか感じ取りながら聴こう		○時代背景や作曲者の思いを捉えることができるように、板書やワークシートを工夫する。
「プラハの春音楽祭」を聴き、作曲者の思いや表現の仕方について、各自の考えを基に話し合う	◎「 プラハの春音楽祭 」を聴き、 作曲者の思いを感じ取る。 ・「プラハの春音楽祭」について説明を聞いて、楽曲のよさを考えてみよう。 ・DVDで1曲全て視聴し、様々な情景描写や感情、曲のイメージを感じ取ろう。	対話的な学びの手だて 「プラハの春音楽祭」を聴き、楽曲の特徴をメモさせ、それを用いて時代背景や作曲者の思いについて話し合わせることで、ブルタバのよさや美しさに気付かせる。
	◎ 作曲者がブルタバの旋律に込めた思いについて話し合う。 ・「ブルタバ」の旋律とイスラエル国歌の関連を考えてみよう。 ・作曲者が「ブルタバ」の旋律に込めた思いを考えてみよう。	 ○「ブルタバ」の旋律とイスラエル国家の関連について考えさせることで、作曲者の思いを捉えさせる。
学習内容をまとめる	◎ 作曲者が情景や思いを伝えるための楽曲の表現の仕方についてまとめる。 ・作曲者が情景や思いを伝えるために工夫していることを書いてみよう。	深い学びの手だて 作曲者が情景や思いを伝えるための表現の仕方について、友達に向けた紹介文に書き表すことで、曲のよさや美しさを捉えさせる。
まとめ 作曲者が情景や思いを伝えるための曲想や表現の工夫を感じ取ることができた		○特徴的な記述について全体に紹介し、音楽の味わいをより深める。
振り返りをする		

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

鑑賞への興味・関心

導入では、鑑賞への意欲を高めることが大切です。そのために、曲想と音楽の構造との関わり等に着目させ、作曲者の思いと表現の仕方などの鑑賞の視点をもたせましょう。

Point

鑑賞を深める言語活動

作曲者の思いと表現の仕方を関連付けるために、音楽的な特徴を共有する言語活動を設定し、鑑賞したことについて話し合いを行いましょう。

Point

音楽のよさや美しさの実感

終末では、学びの手応えを実感する場を設け、音楽のよさや美しさを捉えさせ、自分にとってどのような価値があるのかについて振り返ることができるようにしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

「A表現」の全ての題材で主題を大切にしましょう。1年生の「B鑑賞」では、生徒が見方や感じ方を広げられるようにしましょう。

形や色彩等の造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目してイメージを捉えたりする造形的な視点を大切にしましょう。

表現と鑑賞を関連させ、発想や構想、鑑賞をする際にも働く学習の中心となる考えを大切に授業を改善していきましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 私の○○デザイン構成【第1学年】

生徒に生活の中で感じる色彩の特性や感情にもたらす効果に気付かせ、自分の好みや趣味等から発想して、自己を紹介する色彩構成の授業である。完成後はお互いの作品の主題を読み取らせるとともに表現の工夫にも注目させる題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

色みや明るさ、鮮やかさ等の性質や、それらが感情にもたらす効果について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができる。

思考力、判断力、表現力等

作品や身近な製品等のよさや美しさ、形や色彩等が感情にもたらす効果等を考え、対象の特徴や面白さ等から主題を生み出し豊かに発想や構想を練ったり、作者の心情や表現の意図と工夫等について考えて見方や感じ方を広げたりすることができる。

学びに向かう力、人間性等

楽しく表現や鑑賞の活動に取り組み、形や色彩等が感情にもたらす効果等に気付いたり活用したりしようとする。

3 題材のデザイン 全11時間

本題材の流れ	生徒の学びの姿
色彩の特徴や感情にもたらす効果に気付く	◎身の回りのものを鑑賞し、色彩の特徴や感情にもたらす効果に気付く。 ・色には明るさや鮮やかさだけではなく、軽重等、感情にもたらす効果があるんだ。 ・商品のイメージにあった色が使われる等、美術が社会の中で活用されているね。
主題を生み出し、意図に応じて表現を工夫する	◎自分が好きなことやものから主題を生み出し、形や色彩の特徴や効果に着目しながら意図に応じて創造的な表現を工夫する。 ・アイデアスケッチを相互鑑賞したら、他の人の作品のよさや表現の工夫に気付くことができたし、形や色彩の特徴や効果に着目しながらアドバイスし合うと、課題解決のヒントに気付くことができた。 ・表したいことを、形や色彩等を効果的に用いたらイメージ等が伝えられた。
完成作品を相互鑑賞する 題材を振り返る 本時	◎完成した作品を相互鑑賞する。 ・作品に込められた作者の意図が読み取れたし、他の人が違った見方や考え方をしていることに気付いた。新しく知った視点を次の授業で活用したい。 ・色彩の特徴や感情効果は、生活の中でも活用されているので、もっと調べたい。

○本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 題材と効果的な出会いを準備し、生徒の興味や関心を高める。
- 色彩の特徴や感情にもたらす効果が、身近な生活の中で効果的に活用されていることを理解させ、学びの意味に気付かせる。

対話的な学び

- アイデアスケッチや完成作品を相互鑑賞し、作品のよさや表現の工夫を感じ取らせ、新しい視点に気付かせる。
- 鑑賞して読み取った作品のよさ等を交流する場面を設定する。

深い学び

- 交流して得た作品に対する見方や考え方を基に作品について考えさせることで、色彩の特徴や感情効果等を捉えさせる。
- 身近なものに繋げ、生活の中の美術の働きについて気付かせる。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開

第11時／全11時

本時のねらい

形や色彩の特徴や感情にもたらす効果に着目しながら、作品のよさや美しさ、表現の工夫を読み取ることができる。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手だて
本時のめあてを知る めあて 形や色彩、イメージに注目して作品のよさや美しさ、表現の工夫を見つけよう 学級全体の作品を鑑賞し、自分なりの考えをもってから交流し、自他の感じ方や考え方の違いに気付く 学習内容をまとめる まとめ 形や色彩の特徴、色彩の感情にもたらす効果を活用すると、意図を伝えたり、表現を工夫したりすることができる 振り返りをする	◎ 作品から造形的な視点を確認し、見通しをもつ。 - 形や色彩、イメージ等から作品のよさや工夫を見付けた。この視点で作品をもっと見たい。 - 鑑賞後、キャプションを見たら、思ったよりいろんな表現の意図や工夫があって驚いた。  ◎ 学級全体で鑑賞し、お気に入りの3点を選び、根拠も考える。 - 意図に合わせて様々な表現の工夫があり、形や色彩の特徴や効果を使っていた。  ◎ 班ごとの発表から、見方や考え方の違いに気付く。 - 私が思ったのとは違う視点でよさや美しさを見つけていて驚いた。 - 制作や鑑賞から、色彩の効果がとても影響することが分かった。  ◎ 形や色彩の特徴や効果について確認し、身の回りの生活の中にもあるかを考える。 - 形や色彩を工夫すれば、意図に合う表現ができるし、作品も読み取れるんだな。もっと身の回りのものの工夫を探そう。	主体的な学びの手だて 作品紹介のキャプションを伏せて相互鑑賞を行い、自分なりの感じ取り方ができるようにする。 ○ペアで鑑賞後、キャプションを紹介し合い、自分の感じた以外の工夫に気付かせる。 ○生徒の発表から、形や色彩、イメージ等といった〔共通事項〕を造形的な視点として押さえ、めあてにつなげる。 対話的な学びの手だて 造形的な視点を意識させて、作品のよさや美しさ、表現の工夫の面白さを捉えさせる。 ○鑑賞する際には、作品から感じたり考えたりした根拠についても考えさせる。 深い学びの手だて 交流して得た作品に対する見方や考え方を基に作品について考えさせることで、色彩の特徴や感情効果等を捉えさせる。  ○身の回りの生活の中から、色彩の特徴や感情効果が活用されているものを探させたり話し合わせたりすることで、生活の中の美術の働きに気付かせる。

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

作品から自分の考えをもたせる

作品鑑賞では、生徒が自分の考えとその根拠をもってから対話する場面を設定しましょう。そのためには、鑑賞の視点を確認し、まず個人で見る時間を確保しましょう。

Point

根拠を交流する話し合い

対話を通して、生徒に自分とは違う見方や考え方があることに気付かせましょう。そのためには、根拠も一緒に発表させ、形や色彩、イメージ等をどのように捉えているか確認せるとよいでしょう。

Point

造形的な視点から考える

対話で得た見方や考え方をういて、もう一度個人で考えたり授業の目標にせまったりする場面を設定しましょう。そのためには、本時で何を学ばせたいかを教師が明確にもつことを大切にするとよいでしょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

生徒自らが運動についての課題の解決に向けて、試行錯誤や対話を重ね、主体的に取り組むことができるようにしましょう。

運動することの価値やその特性に着目させ、楽しさや喜びを体感することに加え、その運動が体力向上に果たす役割の視点からも捉えることができるようにしましょう。

よりよい課題の解決を図るために自分だけでなく友達の課題の解決についても考え、助言するなどの学習を取り入れましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 武道（剣道）【第2学年】

攻防を展開したり発展的な技を出したりする中で自他の課題を見付け、その課題を解決するために手本と自他の動きを比較し、助言し合う等の活動を通してその技ができる楽しさや喜びを味わう単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

剣道の特性や成り立ち、技の名称や行い方を理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて、相手の動きに応じて打ったり受けたりする等の簡易な攻防をする。

思考力、判断力、表現力等

攻防や発展的な技の習得に向けた自他の課題を見付け、課題の解決に向けて適切な方法を考え、技の行い方の工夫について考えたり、友達と助言し合ったりする。

学びに向かう力、人間性等

自他の課題の解決に向けて、練習の方法を自分で選ぶ等、主体的に考え活動するとともに、友達の助言や挑戦を尊重しようとする。

3 単元のデザイン 全12時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元の見通しをもつ	◎手本の動画を見て、単元全体のイメージをつかむとともに剣道の特性を踏まえ、友達との関わり合いの中で自他の課題をもつ。 ・技や動きを組み合わせ、手本の動画のような一本を取れるようになりたい。 ・課題を解決するために留意するポイントを友達と協力して見付けたい。
基本となる技を習得する	◎技を出すタイミング等、基本となる技のポイントを理解する。 ・技を出すタイミング等の留意するポイントは、それぞれの技で違うんだ。
課題の解決の方法を考え、適切な方法を選択し、試行錯誤や対話を重ね、応じ技を習得する 本時	◎課題の解決に向けて自他で考えた解決の方法に気付き、選択して活動する。 ・相手の動きをしっかりと見ながら技を出すことが大切だ。 ・習った技や動きを組み合わせると一本を取りやすくなることが分かった。
技の発表会を行う	◎技の完成に近付いたことや剣道の楽しさを実感する。 ・単元の始めで見た手本に近付いている。 ・技が完成に近付いたり、相手と攻防することは楽しいな。
単元のまとめをする	

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 手本の動画や技の完成に近づく練習方法を示すことにより、生徒に見通しをもたせる。
- 自他で考えた課題の解決の方法を大切に学習を振り返らせ、次への学びにつなげる。

対話的な学び

- 自分だけでなく友達の課題やその解決の方法についても考え、選択できるようにする。
- 友達と対話しながら自他の課題の解決に取り組む場を設定する。

深い学び

- 自他で考えた留意するポイントを意識して活動し、上達した要因について自分で考えたり、話し合わせたりして、技が完成に近付いていることを実感できるようにする。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第9時／全12時

本時のねらい

応じ技である「面抜き胴」を効果的に打つための留意するポイントについて考え、技の完成に近付けることができる。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手だて
学習の見通しをもち、本時のめあてを確認する めあて 「面抜き胴」をよりよく打つためのポイントを見付けよう 手本と自他の動きとの比較から、「面抜き胴」のポイントについて個人で考えた後、友達と話し合う 見付けたポイントに留意し、班で活動する 学習内容をまとめる まとめ 自他で考えたポイントで「面抜き胴」を打つと技が上達した 振り返りをする	◎「面抜き胴」の動画を見て、本時のめあてをつかむ。 - 技のつながりを意識すると、技の完成に近付きそうだ。 - 相手の動き始めのタイミングをしっかりと見るとうまく打てそうだ。  ◎「面抜き胴」をよりよく打つためのポイントについて考える。 - 打突部位を外すのは、手本と何が違うからだろう。 - 技を決めるためにもっと速く胴を抜くことが大切だ。 ◎考えたポイントで活動し、さらによりよくするためのポイントについて考える。 - 胴を抜くのが遅いからもっと速く抜いてみよう。 - 胴を速く抜くためには、面を打つ方も速く打つとよい。  ◎学習を振り返り、分かったことをワークシートに書き、発表する。 「面抜き胴」の留意するポイントを意識することで技の完成に近付いた。	主体的な学びの手だて 「面抜き胴」の動画に、教師が技を出すタイミングの解説を加えることで本時の見通しとめあてをつかむことができるようにする。 ○見通しをもちにくい生徒には、相手の動き始めを見ること等のヒントを示す。 ○生徒一人一人が考えた方法により活動させ、その様子をビデオで撮影する。 対話的な学びの手だて 手本と自分の動きを同時再生する動画を見た後に、本時のめあてを踏まえて、よりよく打つためのポイントについて話し合う場を設定する。 深い学びの手だて 生徒一人一人が留意するポイントによって活動した後、<u>上手いかなかったことについて話し合わせ、互いに助言させるようにし、新たな気づきを促すようにする。</u> ○再度考えたポイントを意識させて、友達と助言し合いながら活動させる。 ○できるようになったことや活動を通して気付いたことについて振り返るように助言する。

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

めあてを主体的につかませる

手本を視覚的に確認するだけでなく、留意点を教師が場面に応じて示すことで、生徒が技の完成のイメージをもちやすくするとともに、めあてを自分のこととして捉えることができるようにしましょう。

Point

話し合う視点の提示

話し合いに入る前に、もう一度めあてを生徒に意識させたり、教師が話し合う視点を示したりして、話し合う意義と内容を生徒一人一人が理解できるようにしましょう。

Point

学びを深める活動

自分たちで考えた技のポイントを生かして活動するだけでなく、よりよい技にするために、もう一度班で考えたり、話し合ったりする活動を取り入れましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

社会性や安全性、環境負荷や経済性等の様々な視点に着目させ、よりよい考えを構想するために、他者と対話したり、協働して活動したりする場面を設定しましょう。

生活や社会の中から技術に関わる課題を設定し、丈夫さや機能等の条件を踏まえて構想し、製作等を行います。そして、その過程や結果を振り返り、よりよい生活に向けて新たな解決の視点を身に付けさせるようにしましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 計測・制御のプログラミング【第2学年】内容D（3）

計測・制御の仕組みを理解し、ロボット掃除機のモデルをプログラミングする活動を通して、情報の技術が社会に果たす役割を認識し、よりよい生活に向けて新たな発想に基づく改良と応用について考える題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

計測・制御システムの仕組みや、情報の技術が生活や社会に果たす役割や影響を理解する。安全・適切なプログラムの制作・動作の確認及びデバッグができる。

思考力、判断力、表現力等

社会や情報に関する様々な条件の基で、自ら課題を設定し解決する方法等を工夫したり、よりよい社会の構築に向けて、新たな発想で改良・応用したりすることができる。

学びに向かう力、人間性等

自分なりにプログラムを構想・制作し、その過程を振り返り、改善・修正しようとしたり、よりよい生活に向けて情報の技術を工夫し創造していこうとしたりする。

3 題材のデザイン 全10時間

本題材の流れ	生徒の学びの姿
題材の見通しをもつ	◎計測・制御のプログラミングへの関心と、問題の解決に向けた意欲が高まる。 ・計測・制御システムの仕組みが分かった。 ・習ったことを生かして、自分でプログラムを組んでみたい。
プログラミングを行う	◎市販の自動掃除ロボットの動きを観察し、プログラムを制作する。 ・教室をきれいにするためには、どんな命令を組み合わせたらいいのかな。 ・反復処理を使うと、プログラムが見やすく、効率もいいね。
動作確認し、修正する	◎プログラムでセンサカーを動かして、動作を確認し、修正する。 ・うまくいかない原因が分かった。修正して目的に沿った制御ができたぞ。
よりよい生活に向けて考える 本時	◎生活と社会、環境との関わりを踏まえて、新たな発想に基づく改良と応用について考える。 ・プログラミングの知識を生かすと、災害時に役立つロボットの構想をいろいろ考えることができるな。

○本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○ロボット掃除機のモデルを用いて、教室をきれいにするためのプログラムを制作する学習や、その過程を振り返らせたり、改善しようとしたりすることで、新たな課題の発見をさせる。

対話的な学び

○自分が考えたプログラムを基に友達と対話して、プログラムを比較・修正・改善する活動を行わせ、よりよい考えを構想することができるようにする。

深い学び

○プログラムの制作という課題を解決する活動の中で、自分の考えを構想させたり、友達から助言を得たりすることで、情報の技術を活用した生活について、自分の考えを再構成させる。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第9時／全10時

本時のねらい

計測・制御のプログラミングの学習を生かして、災害時に役立つ機器やロボットを構想することができる。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手だて
めあてを示し、学習の見通しをもつ	◎ 既習事項のポイントを確認し、本時の課題をつかむ。 ・全国各地で災害があるね。 ・自動掃除ロボットで学んだ計測・制御のプログラミングが生かせそう。 ・災害時に役に立つ機器やロボットを考えてみよう。	主体的な学びの手だて 既習の計測・制御のプログラミングが生かせる身近な問題として災害時を想定し、学習の見通しを持つことができるようにする。その際、災害状況を写真等で見せ、視覚的にイメージしやすくする。 ※災害に関する内容を扱うため、家庭の状況に配慮する。
めあて 災害時に役立つ機器や、ロボットを構想しよう	◎ 災害時に役立つ機器やロボットの構想を考える。 ・どんな機能をもっていけば、災害時に役に立つだろう。 ・自動で動くためにはどんなセンサをつけたらいいかな。	○ 前回までの学習を振り返らせ、災害時の問題の解決に役立つロボットには、どのような機能が必要か、また、そのプログラムはどのようなものかを、考えさせる。
課題を設定し、自分の考えを構想する	◎ 自他の構想を、機能面・安全面・環境面・経済面等の視点から班で検討する。 ・自動で動かすためにはどんなセンサが必要かな。 ・センサが多くて、コストがかかりそう。 ・どんなプログラムを組めば安全に動作するのかな。	対話的な学びの手だて 機能面以外の様々な視点も提示してそれぞれの視点から構想のよい点や改善点について話し合わせることで、新たな視点に気付けるようにする。
班で話し合い、検討する	◎ 自分のロボットの構想を練り直す。 ・災害時は何より人命救助が一番だから、コスト面は考えずに構想してみよう。 ・人を安全に運ぶためにはどんなセンサがあればいいのかな。	
自分の考えを練り直し、構想を工夫する	◎ 本時で学んだことを確認し、自分の言葉で振り返る。 ・身の回りの機器やロボットも、安全面や環境面等の様々な視点から考えられて開発されているんだ。	深い学びの手だて 最適な解決策となるように、構想を複数の視点を踏まえて練り直し、技術の開発の場面で新たな発想に基づいて考えることができるようにする。
学習内容をまとめる		○ 本時の思考の流れを振り返らせることによって、新たな機器やロボットを構想するためには機能が充実することだけではなく、安全面等の様々な視点や条件を踏まえる必要があることに気付かせる。
まとめ 機器やロボットの開発には、安全面等の様々な視点を踏まえる必要がある		
振り返りをする		

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

課題解決意欲を高める工夫

導入では、既習のプログラミング学習を生かせるような身近な生活上の問題を取り上げて、生徒の課題解決に向けた意欲を高めましょう。

Point

話し合う視点の提示

機能面だけでなく、安全面、環境面、経済面等の様々な視点から自分の構想を見直すことができるように、話し合う視点を提示しましょう。

Point

構想を練り直す場の設定

構想が最適な解決策となるよう、教師の助言や友達の意見を参考にして、自分の考えを練り直す時間を設けましょう。その際、言語化だけでなく、図や絵で表すことも大切にしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

生活の中から課題を設定できるよう、既習の知識及び技能や生活経験を基に自分の生活を見つめる場面を設定しましょう。

生活の課題を解決する際、よりよい判断ができるよう他者の考えを聞いたり自分の考えを伝えたりする場面を設定しましょう。

生活との関連を図った問題解決的な学習では、実践を自分で評価する場面を設定し新たな課題を見いだせるようにしましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 自分らしく、快適に着よう【第1学年】 内容B（4）

小学校の学びを踏まえ、衣服の機能について関心を高め、衣服の選択、手入れについての基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用して快適で豊かな衣生活を工夫しようとする題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

衣服と社会生活との関わりが分かり、目的や個性に応じた着用、衣服の適切な選択や衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできる。

思考力、判断力、表現力等

生活の中から衣服の選択や手入れに関する問題を見だし課題を設定し、健康・快適等の視点から、衣服の選択及び日常着の手入れの仕方を考え、工夫することができる。

学びに向かう力、人間性等

快適で豊かな衣生活を展望し、身に付けた力を家族や地域の一員として、家庭や地域の中で生かして実践しようとする。

3 題材のデザイン 全12時間

本題材の流れ	生徒の学びの姿
題材の見通しをもつ 本時	◎ 快適で豊かな衣生活を送るために、生活を振り返り、課題を発見する。 ・学校の制服の不便なところを見直して、もっと快適なものにできないかな。
課題の解決方法と計画を検討する 課題解決に向けた実践活動をする	◎ 快適で豊かな衣生活を送るために、衣服の選択及び日常着の手入れの仕方の工夫を調べたり、考えたりする。 ・服を選ぶときに値段だけを気にしていたけど、今度から表示も見て選ぼう。 ◎ 衣服の適切な手入れ方法を理解し、実践する。 ・衣服の手入れは親任せだった。洗濯方法やまつり縫いの方が分かったから、これからは自分で服を洗ったり、裾がほつれたら自分で修繕したりできそう。
題材のまとめとして、学んだことを基にこれからの自分の衣生活の工夫を考える	◎ 快適で豊かな衣生活を送るために、衣服の選択や手入れの知識及び技能を生かし、さらに既習の環境のことも配慮した衣生活を工夫する。 ・服を買うときは表示を絶対に見るようにする。今着ていない服の処分は、捨てるのではなくて、親と相談してリサイクルショップへ持って行こうかな。

○本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 衣生活に対する興味や関心を高めさせるために、生徒にとって身近な「制服」を取り上げる。
- 課題解決に向けた実践的・体験的な活動を取り入れ、解決に向け、見通しがもてるようにする。

対話的な学び

- 快適で豊かな衣生活を送るための工夫について、健康・快適の視点で意見交換し、他者の意見を聞くことで新たな気づきを得て、考えに広がりや深まりをもたせるようにする。

深い学び

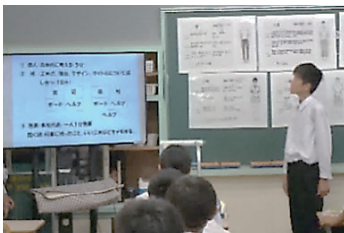
- 衣服の選択や手入れの実践と既習の環境への配慮を踏まえて、自分の衣生活を考えさせることで、快適で豊かな衣生活に向けて実践的な工夫をすることができるようになる。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしたい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第3時／全12時

本時のねらい

社会生活を営む上での衣服の機能が分かり、理想の制服のデザインを考えることができる。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手だて												
本時のめあてをつかむ めあて 理想の制服をデザインしよう 理想の制服を個人で考えた後、班で話し合う 班で考えた理想の制服を発表する 班で考えた理想の制服を再度、見直す 学習内容をまとめる まとめ 制服のデザインには、機能性や見た目、社会生活上の働きが大きく関係している 振り返りをする	◎前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 ・前の授業では、目的や個性に応じた着方について考えたな。 ◎理想の制服を個人で考えた後、班で話し合いデザインをする。 ・涼しさを感じるために、袖の長さはもう少し短いといいな。  ◎班ごとに理想の制服のデザインと工夫点、その理由を発表する。 ・派手すぎると印象が悪いので細めの幅のリボンにした。  ◎他班の発表を聞き、自分達の理想の制服のデザインを見直す。 ・今の制服のデザインに校章の刺しゅうを入れたら、もっと制服に愛着がもてるかも。 ◎ワークシートに分かったことや今後知りたいことを書く。 ・素材や手入れのことをもっと知らないと、これ以上は改善できないな。	○身近な制服を取り上げ、生徒の興味・関心を高めさせる。 主体的な学びの手だて 制服の不便なところに注目し、理想の制服に近づける改善策を考えさせることで日常の衣生活への課題意識をもたせる。 ○理想の制服を考えやすくするため、項目に沿って工夫と理由を言葉でまとめさせる。その後、さらに具体的にするためにデザインを描かせる。 対話的な学びの手だて 互いの考えを可視化して情報共有しやすく「ホワイトボード」を活用し、理想の制服について意見が出やすいように、項目に沿って検討させる。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>工夫</th><th>理由</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会生活上の働き</td><td>東中の生徒は、制服のデザインが、東中以外の学校に比べて、校章をまじいように付けている。ようにするため。</td><td></td></tr> <tr> <td>見た目</td><td>すずい感じにする(白色半ズボン)</td><td>夏だから暑くない。白色は熱を吸収しないから。</td></tr> <tr> <td>不便さの改善</td><td>動きやすさ、やわらかい素材を使う。汗を吸収する素材を使う。汗でべたべたの服はイヤだから。汚れがつかないように。白色は汚れが目立つから。</td><td></td></tr> </tbody> </table> 〔ホワイトボードの記入例〕 深い学びの手だて 全体発表後、各班で考えた制服のデザインをもう一度見直し、快適な衣生活への工夫を改めて考えさせる。 ○分かったことに加え、制服をよりよく改善するためにどんな知識が必要かを自分なりの言葉で書かせ、今後の授業への見通しをもたせる。		工夫	理由	社会生活上の働き	東中の生徒は、制服のデザインが、東中以外の学校に比べて、校章をまじいように付けている。ようにするため。		見た目	すずい感じにする(白色半ズボン)	夏だから暑くない。白色は熱を吸収しないから。	不便さの改善	動きやすさ、やわらかい素材を使う。汗を吸収する素材を使う。汗でべたべたの服はイヤだから。汚れがつかないように。白色は汚れが目立つから。	
	工夫	理由												
社会生活上の働き	東中の生徒は、制服のデザインが、東中以外の学校に比べて、校章をまじいように付けている。ようにするため。													
見た目	すずい感じにする(白色半ズボン)	夏だから暑くない。白色は熱を吸収しないから。												
不便さの改善	動きやすさ、やわらかい素材を使う。汗を吸収する素材を使う。汗でべたべたの服はイヤだから。汚れがつかないように。白色は汚れが目立つから。													

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

めあてを主体的につかませる

前時の活動の振り返りや身近な生活の中の話から、生徒に課題意識をもたせ、生徒自身でめあてがつかめるようにしましょう。

Point

話し合いの可視化

課題解決に向けたよりよい考えをまとめられるように、ホワイトボード等を活用して、一人一人の考えを可視化して検討できるようにしましょう。

Point

新たな気づきを生む振り返り

振り返りの時間を確保し、学んだことやもっと知りたくなったことを自分なりの言葉で書かせ、新たな課題に気付かせたり、快適で豊かな衣生活に向けて次時への意欲をもたせたりしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

技能統合型の授業を目指し、伝える内容を整理し、即興で情報を伝える等、言語活動を行う中で、「思考力・判断力・表現力等」の育成を図りましょう。

生徒が「英語に触れる機会」を最大限に確保し、授業が英語を使った「実際のコミュニケーションの場」となるよう、授業は基本英語で行いましょう。

小学校の学びとの接続を意識し、自分の考えや気持ちを伝え合う対話的な言語活動や既習表現を実際に活用する活動を充実させましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 将来の夢【第2学年】

不定詞の三つの用法を理解し、自分の将来の夢について伝え合うことができるようにする単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

不定詞に関する知識を身に付け、目的、夢、希望の表現の仕方や情報を付け足す言い方を理解するとともに、それらを実際に活用し、スピーチを行う。

思考力、判断力、表現力等

友達と協働して文章を推敲したり、英語で自分の考えや気持ちを表現し、伝え合ったりする言語活動を通して、課題を発見し、表現や伝え方を工夫する。

学びに向かう力、人間性等

相手を尊重しながら、将来の夢について自分の考えや気持ちを伝えようとする。

3 単元のデザイン 全12時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元の見通しをもつ	◎自分の将来の夢についてスピーチを行ったり、友達の夢を聞いて人に伝えたりするという単元終末の言語活動についての見通しをもつ。 ・不定詞を使って、友達に自分の将来の夢を伝えたいな。
不定詞の用法を習得する 練習や自己表現活動、振り返りを重ねながら合理的な解決に向かう	◎不定詞の三つの用法に関する知識を習得するとともに、表現の練習や自己表現活動を繰り返し行う。 ・したいことはwant to do、夢はwant to be。他にも「～するために」という目的も表すことができるんだね。 ・後ろから名詞を修飾する場合にも、不定詞を使えば、より詳しく説明できるね。
言語活動を行う 本時 単元のまとめをする	◎既習事項を活用して、自分や友達の将来の夢について伝え合う。 ・将来の夢について、まとまりのある文でスピーチをすることができた。 ・自分の考えや気持ちを表現することがだんだん楽しくなってきたよ。 ・他者から得た情報を即興で伝えることは、日常生活でよく行うから大切だ。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○生徒にとって、身近な話題を題材に選んだり、不定詞を用いたスピーチのデモを見せたりすることで、興味・関心を高めたり、学習の見通しをもたせたりする。

対話的な学び

○ペアや班で対話を重ねながら、課題の解決に向かう場面を設定する。
○意見や考えを交流させることで、誤りや改善点に気付かせる。

深い学び

○既習事項や習得した知識を活用して言語活動を行う中で、改善点や気づきを全体指導で取り上げることで、新たな気づきや考えの再構築を促す。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第12時／全12時

本時のねらい

自分の将来の夢について発表したり、友達の夢を聞いて人に伝えたりして、言語活動に積極的に取り組むことができる。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手だて
学習の見通しをもつ めあて 自分や友達の将来の夢を伝え合おう 班で、スピーチ原稿を仕上げる ポイントを確認し、スピーチを行う メモをとりながら友達のスピーチを聞く メモを基に即興で内容を伝える 学習内容をまとめる まとめ まとまりを意識したスピーチをすることで、お互いの夢を分かりやすく伝え合うことができる 振り返りをする	◎ 既習事項やスピーチのデモを確認し、本時の言語活動のイメージをつかむ。 ・ 前時の授業で、自分なりにスピーチを考えただけで、友達に上手く伝わるかな。 ◎ 友達と協働しながら、自分のスピーチ原稿を推敲する。 ・ 正しく書けているかな。 ・ 理由が二つあるから、ここに“I have two reasons.”を加えてみよう。  ◎ スピーチの基本形式や伝え方のポイントを確認し、スピーチをし合う。 ・ 友達の表情を見ながら話すと、理解してくれているかが分かる。 ・ 何になりたいかとその理由は、しっかり聞き取ろう。  ◎ メモを基に、友達から得た情報を別の友達に即興で伝える。 ・ メモだけを頼りに、相手に要点を伝えることは難しいな。 ・ 今度は主語が変わるから、三単現の「s」が付くよね。 ・ 次は「s」を忘れないように、気を付けて話そう。 ◎ 本時で学んだことを確認する。 ・ より人に伝わるスピーチができるようになった。 ・ 次は、正確に書きたいな。	主体的な学びの手だて 職場体験を話題に取り上げ、既習事項を確認したり教師がスピーチのデモを見せたりすることで、スピーチのイメージをもちやすくする。 対話的な学びの手だて 文と文のつながりや文の膨らませ方、もう少し聞きたい内容等について、友達と意見を出し合いながら考えさせる。 ○ 「具体例を示した文は、夢の理由に合っているか」や「この文はどこに挿入すれば、説得力が増すか」等の発問を適切に投げかける。 ○ 生徒とのやりとりから、スピーチをする際のポイントを引き出し、聞き手を意識しながら伝えるように促す。 ○ スピーチを聞く際の効果的なメモの取り方（聞き取るべき内容や簡単なメモの取り方）を伝える。 深い学びの手だて 共通して間違えている表現等は全体で取り上げ共有し、再度言語活動に取り組ませるようにする。 ○ 即興性を求める活動なので、相手に伝える「内容」を重視すればよいことも指摘する。 ○ 学びを振り返り、即興で伝えた友達の夢を書いてくる課題を与えることで、学習内容の定着を図る。

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

基本、授業は英語で

生徒の理解の程度に応じて英語を使用しましょう。言語活動のデモを見せたり、モデル文を提示し、説明を最小限に留めたりすることで、生徒が英語を使う時間を増やしましょう。

Point

サイクルの繰り返し

「言語活動」⇒「指導」⇒「再度言語活動」のサイクルを繰り返し、よりよい表現の仕方に気付いたり、自分の考えを修正したりする場面を設定しましょう。

Point

即興でアウトプットさせる

外国語で伝え合う力を育成するために、事前に原稿を準備した「発表」だけではなく、即興でアウトプットさせる等の言語活動を位置付けましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

ねらいとする道徳的価値を、生徒が自分の生活に結び付けて考え、自己の生き方について見つめられるような発問や学習活動を取り入れましょう。

生徒が物事を広い視野から多面的・多角的に考え、判断し、表現する力等を育むために、自分の考えを基に議論したり、書いて表現したりする等の言語活動を位置付けましょう。

生徒の個人差のある発達や特性を考慮し、ねらいに即して、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れる等、指導方法を工夫しましょう。

授業実践事例

1 主題の設定 強い意志 【A 希望と勇気、克己と強い意志】

主題の概要

人間としてよりよく生きるには、目標や希望をもつことが大切である。しかし、目標の実現には様々な困難を乗り越えなくてはならない。困難や失敗を受け止めて希望と勇気を失わない前向きな姿勢や、失敗にとらわれない柔軟でしなやかな思考が求められる。

学級の実態

本学級の生徒は行事等に前向きに取り組むことができるが、自分の目標に向けて努力できず、投げ出す生徒もいる。本時では目標や希望をもち、困難や失敗があっても前向きな姿勢を失わず、目標に向けてやり遂げようとする意欲をもたせたい。

使用する教材の概要

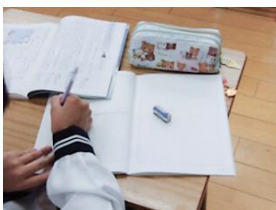
事故で重傷を負った筆者は、周囲に心配かけまいと明るく振る舞う。恩師の一言で視点を転換させて、新たな語り部女優という目標を見付け前向きに生きようと決意する。困難を乗り越えて、前向きに生きることが充実した生き方になることを考えさせられる教材である。

2 本時の展開

本時のねらい

希望と勇気をもって最後までねばり強くやり抜こうとする態度を育成する。

本時の流れ	教師の発問と生徒の学びの姿	教師の手だて
「夢や目標を実現するために心がけていること」について想起し、本時のめあてをつかむ めあて 夢や目標を実現するためには大切なことは何だろう 教材「やさしいうそ」を読む 筆者の気持ちの変化について考える	◎自分の「夢や目標」に向けて具体的に心がけたことやがんばったことはありますか。 - 人付き合いを大切にする。 - 特に何もしていない。 - 体力をつけようと走った。 ◎明るく振る舞う私の「体中につまっていたうそと不安」とは何だろうか。 - これからどうしよう。でも周りに心配かけたくない。 - 本当はつらいけど誰にも言えない。 ◎語り部女優を勧められ、私はなぜ「これをやれなきゃ自分じゃない」と思ったのだろうか。 - 自分に残されたものは声だから、その声を生かしたいと思ったから。	主体的な学びの手だて 学校生活や部活動など自身の生活経験を想起させて、本時のめあてへつなぐ。努力したけど、うまくいかなかったこと等も出させて、自分との関わりで考えがもてるようにする。 ○事故により自分の未来に不安と絶望を感じる筆者の思いに共感して考えることができるように、内容を黒板へ整理して筆者の状況を視覚化する。 対話的な学びの手だて 様々な立場から筆者の発言や行動を考え、学級全体で話し合うことを通して、筆者が自分の境遇を受け止め、残された力を生かそうと視点を変えたことに気付かせる。

本時の流れ	教師の発問と生徒の学びの姿	教師の手だて
現在の筆者の気持ちを考える 自分の生き方を見つめ、考えを深める 教師の説話を聞く 振り返りをする	◎「私は今、生きることが大好きです」と言えるのは、なぜだろうか。 ・自分も必要とされていることが分かったから。 ◎夢や目標を実現するために、大切にしたいことはどんなことだろうか。 ・困難なことでも乗り越えようとする強い気持ち。  ◎今日の学習で新たに気付いたことや考えたこと等を振り返りましょう。 ・今まで自分はすぐにあきらめてきたけど、希望をもって前向きに生活したいと思った。	○違う立場の視点で考えさせる補助発問や生徒に理由等を尋ねる問い返しで、筆者の心情を多面的に考えさせたり、自分の事として考えさせたりする。 深い学びの手だて 筆者の生き方から夢や希望を実現するために何が大切かを考えることで、<u>自分の生活を振り返り、これからの自己の生き方を見つめさせる</u>。また意見を交流させて、違う見方や考え方をすることで、自分の考えが深まるようにする。 ○教師が学級の日常の出来事等から願いを語り、道徳的価値をより身近に感じさせる。 ○筆者の姿から考えたことや新たな気づき等を書く活動を取り入れ、生徒が自分の考えを整理したり深めたりできるようにする。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、一定の時間や内容のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

3 評価

以下の二つの視点で教師が見取り、授業改善につなげ、学期末の個人評価の参考資料とする。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

見取り方法：道徳ノートや発表等から

- ・筆者の決してあきらめない生き方を知って、自分も小さな事から挑戦したいと思った。
- ・今まですぐにだめだと思えることが多かったが、前向きに努力することが必要だと思った。

自分の目標に向け粘り強く取り組もうという意欲の高まりを見取る。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

見取り方法：意見交流の観察や道徳ノート等から

- ・筆者は困難を乗り越えて、本当に強くなったんだと気が付いた。
- ・筆者の姿や友達の意見を聞いて、考え方が変わった。自分も目標を大切にしたい。

新たな気づきや考えの広がりを見取る。

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

生徒の生活から
めあてにつなげる

自分との関わりで考えさせるために、学校行事の写真を使う等、これまでの生活体験を想起させて、めあてにつなげましょう。

Point

多様な考えを
もたせる

生徒の反応を予測して、違う道徳的価値からの発問や生徒に理由等を尋ねる問い返しを準備して、多様な考えがもてるようにしましょう。

Point

自己を見つめる
学習活動

筆者の生き方と自分自身を照らし合わせる等、人間としての生き方を見つめるための活動を取り入れましょう。

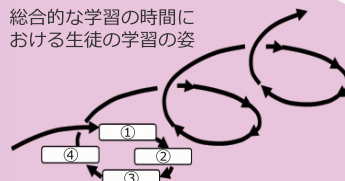


授業づくりの視点

「各学校における教育目標」と学習指導要領の「第1の目標」と踏まえて、各学校で総合的な学習の時間の目標を定めましょう。目標を実現するにふさわしい探究課題を設定し、その解決を通して資質・能力の育成を図りましょう。

学習活動を①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の一連の探究のプロセスとなるように単元を構想しましょう。

総合的な学習の時間における生徒の学習の姿



授業実践事例

1 目標を実現するにふさわしい探究課題

地域学習を将来へつなげる【第3学年】

3年間の地域学習（海洋学習）の振り返りから、新たに地域の課題を見だし、その課題解決のために自らが社長となり、地域の活性化をミッションとして掲げる「地域の社長になろう～地域活性化の応援団～」の取組を通して、自らが地域に貢献できることを考え、自己を見つめる単元である。

2 探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

地域（ふるさと）のよさや課題を改めて知るとともに、課題解決のための情報を収集し、それを整理・分析したり、まとめたりする技能を身に付けることができる。

思考力、判断力、表現力等

3年間の地域学習（海洋学習）の振り返りから新たな課題を見だし、多面的な見方で発想を広げたり、解決の方策を考えたりし、意見を集約したポスターにまとめ、聞く人に伝わりやすいように発表することができる。

学びに向かう力、人間性等

地域についての探究的な学習に主体的に取り組むとともに、班で協働しながら考えを深め、地域の一員として自分の将来を考え、日常の学習や生活を見つめ直そうとする。

3 単元のデザイン

全5時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
【課題の設定】 3年間の地域学習（海洋学習）を振り返り、課題の設定を行う	◎「海洋学習」をキーワードとしたウェビングを用いて取組を振り返り、新たな課題を見いだす。 - 海で活動したり、地域の方の話を聞いて考えたりしたね。 - 後継者不足等まだまだ課題があるな。 - どうすれば地域が活性化するか。 〔海洋学習のウェビングの例〕
【情報の収集】 課題解決のための情報（アイデア）を収集する	◎ウェビングを用いて個人で考え、班で共有することで多様なアイデアを得る。 - この地域ならではの海を生かして、多くの人に来てもらいたいな。 - SNS等で地域の魅力を日本中に発信して、地域の活性化につなげよう。
【整理・分析】 課題解決に向けて、収集した情報（アイデア）を整理し、分析する	◎地域に根ざした架空の会社を班で一つつくり、社名・コンセプト、地域活性化に向けた事業内容を考える。 - アサモ場再生活動を体験してもらったらいね。 - 地域の活性化の循環をつくらないといけないね。
【まとめ・表現】 課題の解決策をまとめ、表現する	◎班の考えをポスターにまとめて発表し、異なる視点や考え方のよさを生かして、将来の地域の姿や自分の将来を考える。 - 新しいことを考えていたけれど、今の地域のよさを生かすことも大切だね。 - 地域のよさを改めて考えることができた。地域の一員としてがんばりたい。

本時

○本单元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○新たな探究課題を自分事として学びを進められるようにするために、3年間の地域学習（海洋学習）の取組を写真やウェビングで振り返らせる。

対話的な学び

○ウェビングを活用して情報（アイデア）を可視化したり、他者から多様な情報を収集したりしながら、他者とともに課題解決に向けて活動する場を設定する。

深い学び

○「まとめ・表現」をする際に、各教科等で身に付けた知識や技能を意識させ、ポスターを作成したり、相互に質疑をしたりする場を設定する。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開

第5時／全5時

本時のねらい

- ・聞く人に伝わりやすいように発表し、各班の考えのよさに気付く。
- ・将来の地域の姿を考えることで、自分の将来について考えたり、日常の学習や生活を見つめ直そうとしたりする。

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手だて
前時の学習を想起し、本時のめあてをつかむ	◎ <u>前時の学びを振り返り、本時のめあてをつかむ。</u> ・他の班の発表も参考に将来の地域の姿についてじっくり考えよう。	主体的な学びの手だて これまでに作成したウェビング図を基に学びを振り返り、発表を通して自分の考えをより明確にすることを意識付ける。
めあて 各班の会社のよいところを探し、将来の地域の姿について考えよう	◎ <u>地域活性化に向けた会社の事業内容等を発表する。</u> ・聞く人に会社のよさや内容が伝わる発表をしよう。	対話的な学びの手だて 発表者は「質問がありますか」と問い掛け、聞き手からアイデアを引き出す等、自分たちで質疑を進め、よくするための情報を集めることで、課題解決に向かうようにする。
各班の発表と質疑を繰り返す	◎ <u>それぞれの班の工夫点や質問したいこと考えながら聞く。</u> ・他の班はどのように活性化させようとしているのかな。	
発表について全体でまとめる		
まとめ どの班の発表にもよさがあり、その実現のために地域の一員として期待されている	◎ <u>課題解決に向けた、より実行性のある方法を考える。</u> ・なるほど、クーポンを配っても経済の循環が起きて赤字にはならないのか。 ・循環という発想がいいね。	深い学びの手だて 各教科の知識を生かした発言を全体場で取り上げることで価値付けを行い、一人一人の学びを自覚化させるようにする。
学習を振り返り自己を見つめる	◎ <u>考えが実現した地域を想像し、将来の自分について考える。</u> ・地域のよさが改めて分かり、もっと好きになったな。 ・自分も地域の一員として、将来の夢に向かってがんばろう。	○「中学生のみんなには地域の応援団になってもらいたい」という地域の方からの言葉を取り上げ、地域の一員として、地域とともに自分の将来について考えさせる。

Point

自分事として学ぶ

生徒の考えや思いが表現された成果物等を活用することで、学ぶ目的を自分事として捉えられるようにしましょう。

Point

課題解決に向けた対話

課題解決に向けた発表や質疑にすることで、質・量ともに課題に対応した情報となるように意識したり、発表方法を工夫したりしましょう。

Point

各教科の学びを生かす

自分の考えをより確かにするために、各教科等で身に付けた知識や技能等を活用して説明したり、考えを比較したりすることを意識するようにしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

生徒が学級や学校における生活上の諸問題を見だし、解決方法を決めて実践し、振り返ることで、その取組のよい点や改善点に気付かせるようにしましょう。

学級活動（２）では、生徒の日常生活の実態を捉えた上で教師が身近な題材を設定し、話し合い活動を通して個人目標を意思決定させます。決めたことに粘り強く取り組むことで、自分がした活動やその努力へ自信を深めることにつながります。

授業実践事例

1 題材の概要 よりよい学級生活を送るために〔第１学年〕 学級活動（２）

気持ちのよい学級生活を過ごすために、学級生活のマナーを向上させることについての話し合い活動を行い、自ら実践できる目標を立て、実践し、振り返る題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

学級生活をよりよくするために、マナーを向上させる意義について考え、個々の意識の向上が学級の意識の向上につながることを理解する。

思考力、判断力、表現力等

学級生活のマナー意識の向上について考え、友達との話し合いを通して様々な考え方や視点に気付く中で、よりよい学級生活を送るための個人目標を意思決定する。

学びに向かう力、人間性等

学級生活のマナーについての考えを深め、気持ちのよい学級生活を送るために積極的に実践し、よりよい自分の姿を目指そうとする。

3 題材のデザイン

本題材の流れ	生徒の学びの姿
○事前の活動 題材の見通しをもつ	◎ アンケートを基に学級生活を振り返り、よりよい学級生活を送るための問題意識を高める。 ・名前を呼ばれても、きちんと返事ができていないことがある。 ・みんなで使うものを大切に扱う意識が低いことがある。
○本時の活動 よりよい学級生活を送るために意思決定する 本時	◎ よりよい学級生活を送るために、お互いのマナー意識とマナーを守ることの意義を考えた上で、個人目標を意思決定する。 ・マナーを意識することで、みんなが気持ちよく過ごせることが改めて分かった。 ・お互いに気持ちよく過ごすために、思いやりのある言動をするぞ。
○事後の活動 意思決定したことを実践し、振り返る	◎ 自分で決めたことを実践し、よりマナーを意識した生活をする。新たな課題や活動の工夫に気付く。 ・みんながマナーを意識して生活すると、お互いに気持ちよく生活できているね。 ・さらによりよい学級生活を送るために、新しい係活動を提案したいな。

○本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○よりよい学級生活を送るために、問題になっていることを事前アンケートから把握させることで、マナーの向上について、生徒一人一人の課題意識を高めさせる。

対話的な学び

○話し合いや各班からの発表を通して、友達の意見と自分の意見との共通点だけでなく、相違点も考えさせることで、友達の考えを理解した上で、自分の考えをもたせる。

深い学び

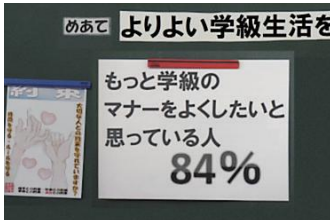
○個人目標の実践は、期間を設けて行い、振り返りでは、問題解決の方法等を工夫させることで、学級生活を送るための新たな問題意識をもたせる。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開

本時のねらい

お互いに気持ちのよい学級生活を送るために、マナーについて自分ができることを意思決定し、よりよい学級集団づくりへの意識を高める。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手だて
めあてを示し、学習の見通しをもつ	◎ アンケート結果を共有し、本時のめあてをつかむ。 ・みんな学級生活のマナーを向上させたいと思っているんだね。 ・しっかり考えて、気持ちのよい学級生活を送れるようにしたいね。	主体的な学びの手だて アンケート結果を基に、学級生活のマナーについての現状を把握させ、問題意識を高める。 
めあて よりよい学級生活を送るために、実践できる個人目標を立てよう	◎ 自分のマナー意識について考え、マナー意識を高めることの意義を班で話し合う。 ・思いやりをもった言動への意識が低いことがある。 ・自分のものだけではなく、みんなのものも大切にしている。 ・マナー意識の向上は、将来に役立つと思うよ。 ・周りの人からの信頼を得ることができるね。	対話的な学びの手だて 話し合いを通して、自分の意見と友達の意見との共通点だけでなく、相違点についても考えるよう促し、様々な考え方や視点があることに気付かせる。 
自分のマナー意識について考え、班で話し合う	◎ 班で話し合ったことを発表し、学級全体で共有する。 ・気持ちのよい学級生活を送りたいという思いは、みんな一緒だということが分かった。	○発表内容をまとめ、学級全体としてマナー意識の向上に向けて共通理解をさせる。
班で話し合ったことを全体で発表する	◎ 自分の学級生活を振り返り、個人目標を意思決定する。 ・相手の気持ちを考えて、言葉遣いに気を付ける。 ・掃除時間以外でも、積極的に教室の美化活動に努めよう。 ・学級の一人一人がマナー意識を高めて取り組んでいけば、みんなが気持ちよく過ごせる学級集団になるんだな。	深い学びの手だて 友達の意見を尊重しながら、自分の学級生活でのマナーや態度を振り返らせることで、問題解決の視点をもちやすくし、実践できる具体的な個人目標を意思決定させる。
個人目標を意思決定する	◎ 本時で学んだことを学級生活で実践していくことを確認する。 ・自分で決めたことは必ず意識して、実践しよう。	○意思決定した目標の実践意欲を高めるために、目標の達成状況を毎日の振り返りにより確認することを知らせ、授業後の活動の見通しをもたせる。
振り返りと授業後に取り組む活動の確認をする		

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

生徒の問題意識を高める

授業の導入では、事前にとったアンケートの結果を基に、生活上の問題を表やグラフ等にまとめたものを提示し、個々の生徒の問題意識を高められるようにしましょう。

Point

話し合いを基に考えを広げる

話し合いでは、自分の意見との共通点だけでなく、相違点についても考えさせましょう。そして、友達の考えを理解した上で、自分の考えをもたせましょう。

Point

問題解決のために深く考える

生活上の課題を解決するために、友達の意見を踏まえて自らの生活を振り返ることで、自分の目標や課題の解決方法等について意思決定させるようにしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



©岡山県マスコット
ももっちとうらっち

平成30年度 岡山県総合教育センター所員研究
(共同研究；教科教育)

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり（実践事例編）」研究委員会

指導助言者

村上 尚徳 環太平洋大学副学長、教授

協力委員

橋本 久美	倉敷市立庄小学校指導教諭
絹田 景輔	備前市立吉永小学校指導教諭
小松万里子	玉野市立鉾立小学校教諭
中嶋 智子	新見市立高尾小学校教諭
坂江 至	真庭市立勝山小学校教諭
名合恵理子	早島町立早島小学校教諭
河田かおり	吉備中央町立下竹荘小学校教諭
難波 愛	倉敷市立東中学校教諭
大塚 康広	津山市立北陵中学校教諭
神谷 由紀	津山市立中道中学校教諭
橋本 宜明	笠岡市立笠岡東中学校教諭
藤田 和美	笠岡市立笠岡東中学校教諭
安井 徹人	総社市立総社中学校教諭

実践事例提供者

篠原 孝昭	笠岡市立金浦小学校指導教諭
濱浪 雅登	玉野市立宇野中学校指導教諭
近藤 圭亮	津山市立中道中学校指導教諭
若松真美子	倉敷市立第二福田小学校教諭
坂川 奈々	倉敷市立琴浦南小学校教諭
塚本 友香	井原市立芳井小学校教諭
下川 愛子	赤磐市立磐梨小学校教諭
太田 千尋	和気町立和気小学校教諭
鐘ヶ江遥奈	吉備中央町立吉備高原小学校教諭
大谷 良子	津山市立津山西中学校教諭
近藤 賢	備前市立日生中学校教諭
三垣 優子	浅口市立寄島中学校教諭
本田 温子	和気町立佐伯中学校教諭
能勢 樹葉	県立岡山大安寺中等教育学校教諭

研究委員

藤原 敬三 教科教育部長

山田 稔	教科教育部指導主事	福田 知子	教科教育部指導主事
鈴木 隆幸	教科教育部指導主事	平田 朝一	教科教育部指導主事
岩佐奈津子	教科教育部指導主事	山本 結城	教科教育部指導主事
久次 正浩	教科教育部指導主事	大辻慎一郎	教育経営部指導主事
小倉 馨	教科教育部指導主事	谷岡 奈央	教科教育部指導主事
室川 基	教科教育部指導主事	桐野 隆江	教科教育部指導主事
難波 玄	教科教育部指導主事	伊藤 昌訓	教科教育部指導主事

平成31年2月発行

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり（実践事例編）」

【編集兼発行所】 岡山県総合教育センター

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11

TEL：(0866) 56-9101 FAX：(0866) 56-9121

URL：http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/

E-mail：koyoikuse@pref.okayama.lg.jp

お問い合わせ 教科教育部 TEL (0866) 56-9103
Copyright ©2019 Okayama Prefectural Education Center

新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり
(実践事例編)



© 岡山県マスコット
ももっちとうらっち

◆ 平成29年3月に公示された新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて、具体的な実践事例を冊子にまとめました。

平成29年度に作成した「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり」と本冊子を併せて活用し、児童生徒の学びの質を高める授業づくりに役立てていただけたらと思います。

